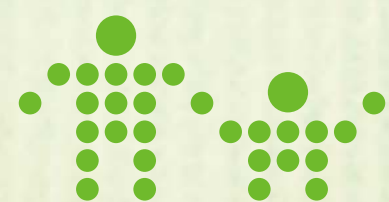


SEEDCap

15周年記念 寄付インパクトレポート



commons
asset management, inc.

一人ひとりの未来を信じる力を合わせて、次の時代をともに拓く

目次

SEEDCapとは

Introduction

- 5 寄付という長期投資
- 6 社会におけるコモンズ投信のありかた
- 7 SEEDCapの仕組み
- 8 寄付先選考委員会メンバー

ハイライト

Highlight

- 10 SEEDCap サマリー
- 11 寄付額推移とアウトカム
- 12 受賞者との活動
- 13 社会起業家から見たSEEDCap
- 14 お仲間の声

受賞者/所属組織

Recipient / Organization

- 16 岩附 由香 氏 認定NPO法人 ACE
- 18 大西 健丞 氏 (当時)公益社団法人 Civic Force
- 20 長岡 秀貴 氏 認定NPO法人侍学園 スクオーラ・今人
- 22 吉岡 マコ 氏 (当時)特定非営利活動法人マドレボニータ
- 24 村田 早耶香 氏 認定NPO法人かものはしプロジェクト
- 26 今井 紀明 氏 認定NPO法人 D×P
- 28 森山 誉恵 氏 認定NPO法人 3keys
- 30 水谷 伸吉 氏 一般社団法人 more trees
- 32 小澤 いぶき 氏 (当時)NPO法人 PIECES
- 34 武藤 将胤 氏 一般社団法人 WITH ALS
- 36 林 伸彦 氏 NPO法人親子の未来を支える会
- 38 大山 遥 氏 NPO法人チャイボラ
- 40 住岡 健太 氏 NPO法人 PCV
- 42 濱野 将行 氏 一般社団法人 えんがお
- 44 過去候補者一覧

特集

Special feature

- 46 第15回コモンズSEEDCap受賞者
- 47 SEEDCap15周年記念対談
- 48 これからのSEEDCap
- 50 編集後記 - 15年を振り返って

SEEDCapとは

Introduction



寄付という長期投資

寄付を通じた 希望あふれる世界を

私たちは、長期投資によって意思あるお金が循環し、希望あふれる世界をつくりたいという想いで2008年にコモンズ投信を設立し、現在は「コモンズ30ファンド」「ザ・2020ビジョン」「コモンズ・インパクトファンド～共創～」「コモンズ・サステナビリティファンド」の4つのファンドを運用しています。そのうち3つのファンドにはそれぞれに寄付のしくみがあり「よい世の中を次世代へつなげる活動への長期投資」という考えの下、こどもや孫世代へ向けてよりよい社会の基盤を築く事業・挑戦者に出資するため、各ファンドから生じる収益の一部を寄付する独自の寄付プログラムを、本業のひとつと位置付けて取り組んできました。

そのひとつである「**SEEDCap（シードキャップ）**」は、社会課題を解決するために自ら立ち上がり、社会的インパクトのムーブメントを起こす社会起業家への寄付を通じて、お仲間（ファンド受益者）、そして社員の一

人ひとりの想いを集めて共にすてきな未来を創りだすことを目指しています。

寄付先の候補者は、毎年開催している社会起業家フォーラムのスピーカーから選び、お仲間（ファンド受益者）や社員たちからの推薦の声を参考に、外部委員を含む選考委員会で最終決定します。これまでに161名がマイク一本のスピーチで登壇、14名への寄付を実現してきました。私たちが価値を感じ、共感できるところにお金が集まっていくようにしたいという想いから、このようなプロセスで寄付先を決定しています。

フォーラムは、社会課題に立ち向かう人たちが出会う場であると同時に、私たちの想いや考えを伝える場でもあります。「**一人ひとりの未来を信じる力を合わせて、次の時代をともに拓く**」というミッションの下、投資や寄付を通じて未来を描き、社会課題を示していくことで、

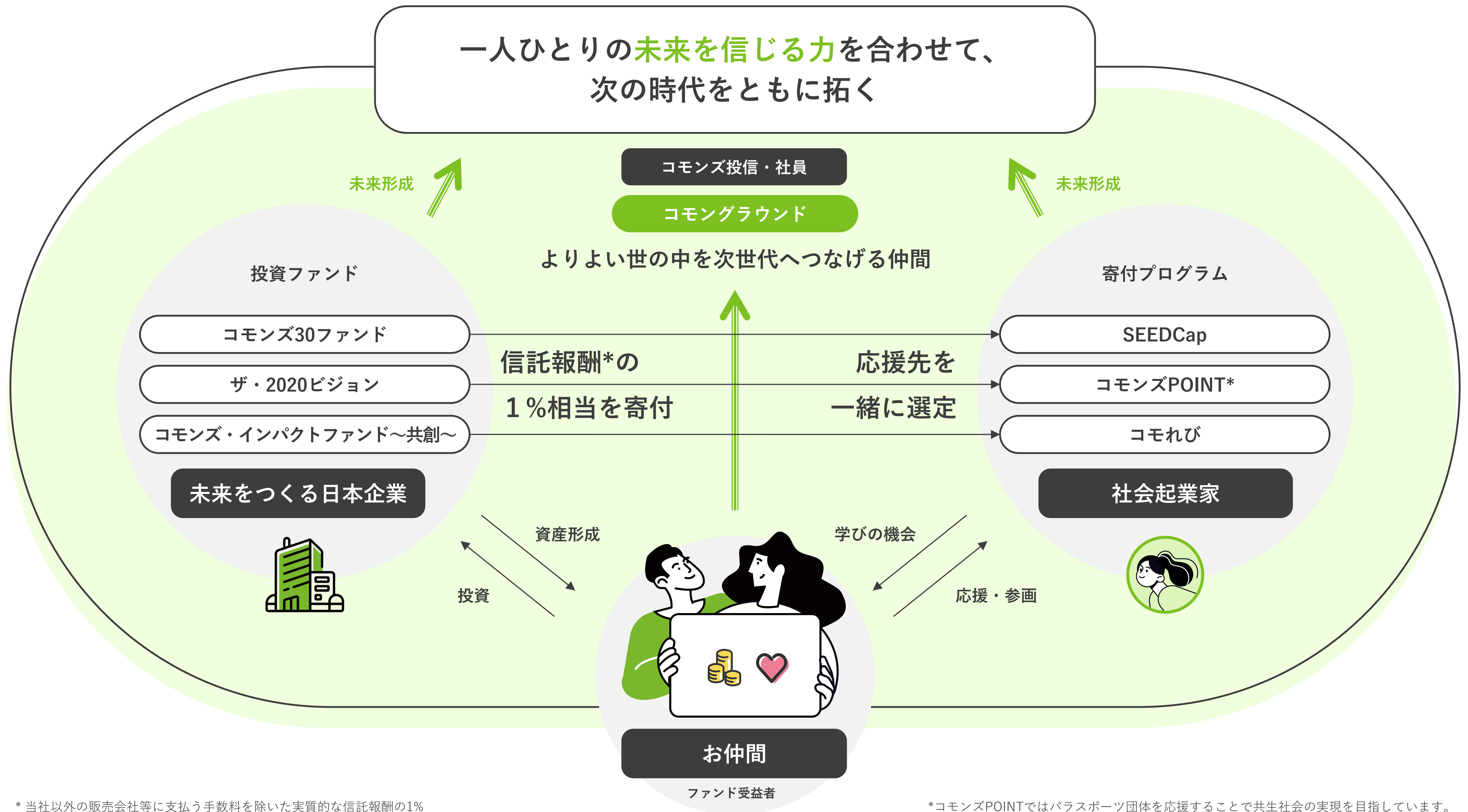
信じる力を育んでいく。一人では微力でも、掛け算、足し算することで大きな力になっていく。それを育む場所＝コモングラウンドをつくり、明日への希望につなげていくことが私たちの存在意義だと考えています。

今回、皆さまと積み上げてきた取り組みを「**寄付インパクトレポート**」としてここにまとめました。**15年間の寄付**を通じてどのくらい希望があふれる世界になってきたのか、数値も含めインパクトとして可視化し、伝えることを目指して作成しています。やがて、投資や寄付を通じた社会へのインパクトを伝えることが当たり前の世界になっていくでしょう。一人ひとりの行動が大きな流れになり、次世代のより良い未来は創られていく。私たちの本レポートが、その第一歩になれば幸いです。

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長 **伊井 哲朗**



社会におけるコモンズ投信のありかた



* 当社以外の販売会社等に支払う手数料を除いた実質的な信託報酬の1%

*コモンズPOINTではパラスポーツ団体を応援することで共生社会の実現を目指しています。

SEEDCapの仕組み

ファンド受益者と一緒に 社会起業家を応援する 独自の寄付プログラム

SEEDCapとは『コモンズ30ファンド』の直販などから生じる弊社の収入である信託報酬の1%相当を寄付するコモンズ投信独自の寄付プログラムです。

毎年開催しているコモンズ社会起業家フォーラムのスピーカーから候補を選び、ファンド受益者の皆さまからのご推薦を参考にして、外部委員を含む選考委員会で最終決定します。社会起業家とは、NPO、株式会社、個人など形態や規模は問わず「今日よりもよい明日」のために社会的な問題解決のための新しい事業を立ち上げ、活動するチェンジメーカーです。

STEP 1 候補の熱い想いを聞く・候補選定

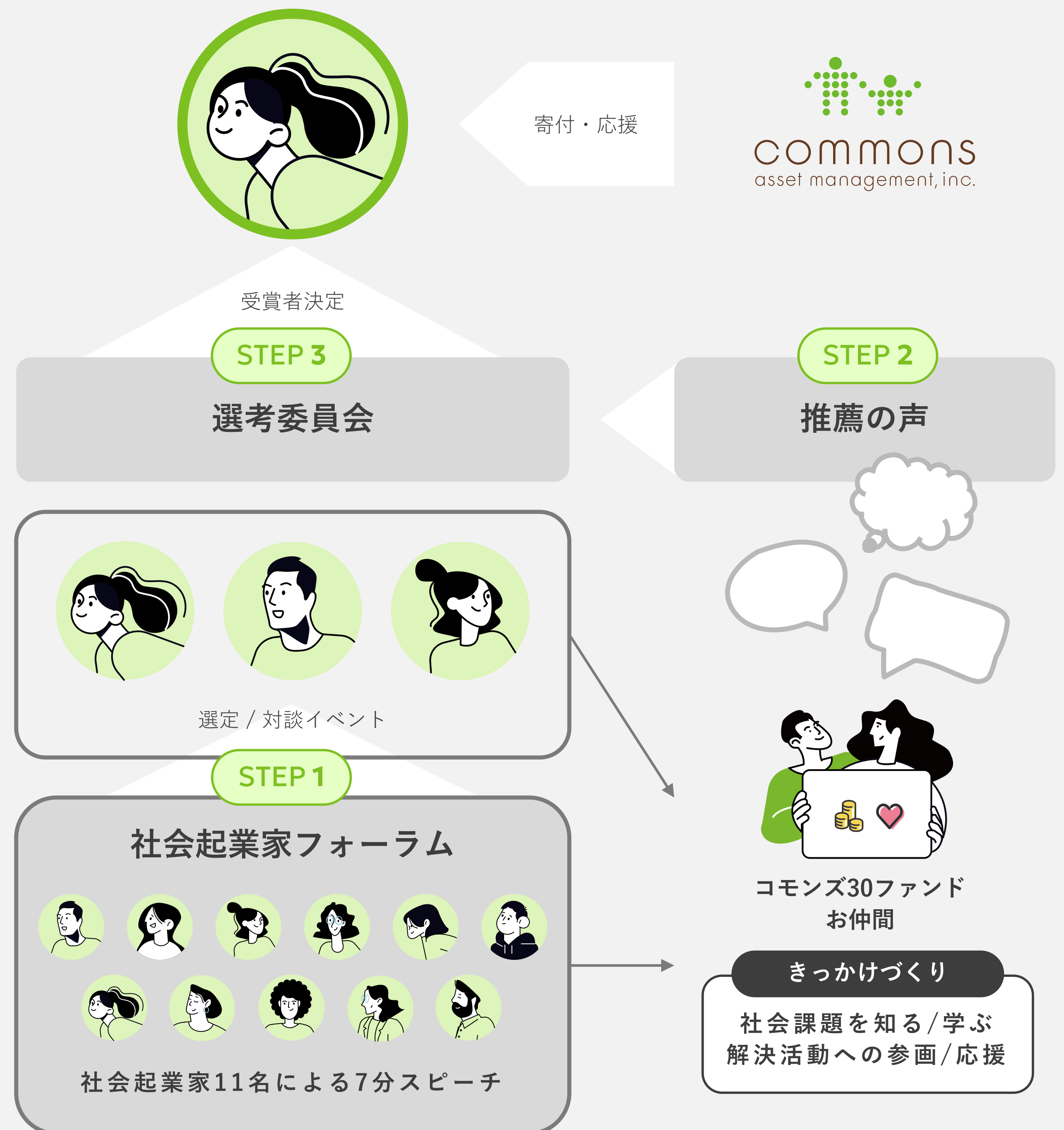
毎年秋に開催する「コモンズ社会起業家フォーラム」を通じて、社会起業家の熱い想いを聞き、フォーラム参加者や社員の声を参考に、社内で最終候補者3名を選定。

STEP 2 お仲間から声を集める

弊社に開設いただいた口座にてコモンズ30ファンドをお持ちのお仲間に、メールなどを通じて候補を紹介し、最も相応しいと思われる寄付先のご意見を募集します。

STEP 3 選考委員会で応援先を決定

外部有識者とコモンズのメンバーで構成する「最終選考委員会」を開催し、上記のお仲間や社員の意見を参考にして、応援先を決定します。



選考委員会

※ 2024年度 第15回SEEDCap時

内部/外部委員で構成するSEEDCap応援先最終選考委員会にてコモンズ30ファンド保有者からの推薦者数、内容等を考慮したうえで、応援先1名を決定しています。

【外部委員】



高橋 一郎

西武信用金庫
理事長



高橋 陽子

公益社団法人 日本フィランソロピー協会
理事長



山田 泰久

公益財団法人 日本非営利組織評価センター
業務執行理事

【内部委員】



渋澤 健

コモンズ投信株式会社
取締役会長



伊井 哲朗

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長



福本 美帆

コモンズ投信株式会社
取締役マーケティング部長
※ 2024年度 第15回SEEDCap選考時 社員代表

【事務局】



馬越 裕子

コモンズ投信株式会社
マーケティング部/ソーシャル・エンゲージメント・リーダー

【コモンズ投信株式会社 社員】



全役職員

【コモンズ30ファンド保有者】

* 2023年度コモンズ投信にて

6,429 人

ハイライト

Highlight



SEEDCap サマリー

累計寄付件数

14 件

社会起業家への累計寄付額

1,153.5 万円

社会起業家フォーラム登壇人数

159組 161 人

お仲間に社会起業家の取り組みを届けた数

57,901 件

最終選考にお仲間から届いた推薦の声（推計）

819 件

受賞した社会起業家

認定NPO法人 ACE 代表理事

岩附 由香 氏

(当時)公益社団法人 Civic Force 代表理事

大西 健丞 氏

認定NPO法人侍学園 スクオーラ・今人 代表理事

長岡 秀貴 氏

(当時)特定非営利活動法人マドレボニータ 代表理事

吉岡 マコ 氏

認定NPO法人かものはしプロジェクト 共同創業者

村田 早耶香 氏

認定NPO法人 D×P 理事長

今井 紀明 氏

認定NPO法人 3keys 代表理事

森山 誉恵 氏

一般社団法人 more trees 事務局長

水谷 伸吉 氏

(当時) NPO法人 PIECES 代表理事

小澤 いぶき 氏

一般社団法人 WITH ALS 代表理事

武藤 将胤 氏

NPO法人親子の未来を支える会 代表理事

林 伸彦 氏

NPO法人チャイボラ 代表理事

大山 遥 氏

NPO法人 PCV (Peace Culture Village) 専務理事

住岡 健太 氏

一般社団法人 えんがお 代表理事

濱野 将行 氏

事業を通じて解決を目指す社会課題

児童労働

災害対策と復興支援

若者の自立支援

出産後の母親の心身ケア

児童買春や人身売買問題

通信制高校生へのキャリア教育

現代版共助の関係

森林保全

子どもの孤立

ALSの課題解決

-1才〈うまれるまえ〉からの医療

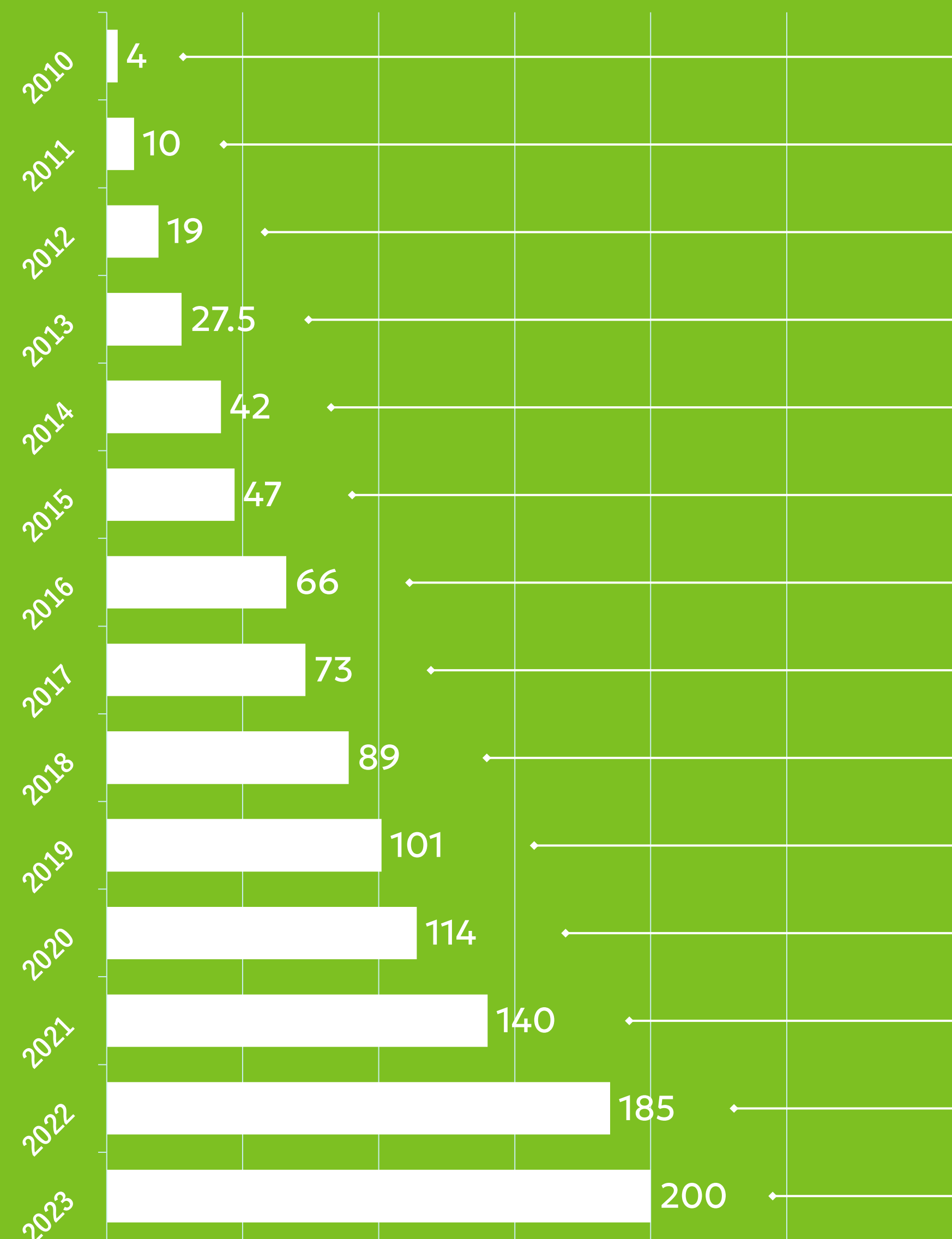
社会的養護施設職員の確保・定着支援

「平和をつくる仕事」をつくる挑戦

「ごちゃまぜ」の力で、あらゆる社会課題の予防と解消

寄付額推移とアウトカム

社会事業への寄付額（単位：万円）



寄付によるアウトカム 一部抜粋

岩附 由香 氏 認定NPO法人 ACE 代表理事

インドの村にて親や住民に子どもの就学を呼びかけ

大西 健丞 氏 (当時)公益社団法人 Civic Force 代表理事

東日本大震災・被災地の救援・復旧、避難者への支援

長岡 秀貴 氏 認定NPO法人侍学園 スクオーラ・今人 代表理事

不登校児童への無料相談会 参加人数 113 人

吉岡 マコ 氏 (当時)特定非営利活動法人マドレボニータ 代表理事

リーフレット『妊娠中～産後の過ごし方ガイド』を制作し、配布

村田 早耶香 氏 認定NPO法人かものはしプロジェクト 共同創業者

インドでの人身売買被害者の回復や人身売買防止のための仕組みづくり

今井 紀明 氏 認定NPO法人 D×P 理事長

人と関わってよかったと思える経験をつくる 21 人

森山 誉恵 氏 認定NPO法人 3keys 代表理事

10代向け支援サービス検索・相談サイト「Mex（ミークス）」の立ち上げ 年間提供コンテンツ 800~900

水谷 伸吉 氏 一般社団法人 more trees 事務局長

「多様性のある森づくり」に賛同する自治体の増加 2 自治体

小澤 いぶき 氏 (当時) NPO法人 PIECES 代表理事

子どもにとってもウェルビーイングな地域をつくる活動 9 件

武藤 将胤 氏 一般社団法人 WITH ALS 代表理事

ALS啓発音楽フェス MOVE FES.2019 開催 来場者 700 人

林 伸彦 氏 NPO法人親子の未来を支える会 代表理事

出生前検査前後の家族のための胎児ホットライン掲示板ゆりかごの整備 登録 1,500 家族

大山 遥 氏 NPO法人チャイボラ 代表理事

社会的養護施設で働く魅力を伝える 職員インタビュー映像の発信 54 本

住岡 健太 氏 NPO法人 PCV (Peace Culture Village) 専務理事

各地域で生み出された「観光人（平和の継承者）」 35 人

濱野 将行 氏 一般社団法人 えんがお 代表理事

多世代交流の拡大、居住支援高齢者の巻き込み 240 時間

受賞者との活動

SEEDCapは寄付だけではありません。

受賞者の活動のお手伝いや

お仲間が参加できるイベントを開催しています。



岩附 由香 氏
認定NPO法人 ACE



吉岡 マコ 氏
(当時)特定非営利活動法人マドレボニータ



水谷 伸吉 氏
一般社団法人 more trees



小澤 いぶき 氏
(当時) NPO法人 PIECES



住岡 健太 氏
NPO法人 PCV

濱野 将行 氏
一般社団法人 えんがお

イベントや記事を一部ご紹介します

第6回こどもトラストセミナー with ACE

児童労働ワークショップ『チョコレートの裏側をみてみよう！』開催

<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.636582393030437&type=3>

コモンズ30塾 企業とNPOが取り組む「ダイバシティ」

<https://www.common30.jp/contents/dialogue/1182/>

「第1回 コモれび（社会課題解決プログラム）」の寄付先決定

かんぽ生命が投資している「コモンズ・インパクトファンド」の寄付プログラム

<https://www.toushin.com/news/news-10022023-3/>

長野県小諸市の「more treesの森」にて「コモンズピクニック」を開催しました

<https://www.more-trees.org/news/20180703/>

「『未来をつくる』お金の使い方～寄付の仕組みをつくる人・寄付を活かす人・

寄付をする人、3つの立場から考えるお金の話」イベントへの協力

<https://www.pieces.tokyo/news/2019/5/1/19041701>

PCV x コモンズ ピースサミット@広島 2023

<https://www.youtube.com/watch?v=L77tdHSMMUA>

えんがおの流しそうめんが生み出す余白

コモンズ30ファンド受益者参加イベント

<https://www.common30.jp/contents/newsletter/4229/>

社会起業家から見たSEEDCap

受賞後の変化を社会起業家の方々にお聞きしました。



SEEDCapに選ばれたことで
ご自身や、組織、事業に起きた変化や
インパクトについて教えてください。

このようなお声をたくさん頂いています。

A.
活動拡大に大きく貢献する
新たな出会いが生まれた。

A.
自身の学びや自信になり
活動に活かされている。

社会起業家の方々からのお声

2012年 第3回 受賞者 -長岡 秀貴 氏 認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人 代表理事

“

第3回の支援先に選んでいただき、長野県上田市という**小さなエリアから、日本全国というエリアへ活動の想いを一気に広げられることが出来ました**。「知る」というゲートとしては最高の舞台だったと思います。

”

2016年 第7回 受賞者 - 森山 誉恵 氏 認定NPO法人 3keys 代表理事

“

まだ社会とNPOの距離が遠いと感じる中で、SEEDCapの受賞はその距離をグッと縮めてくれて、我々の信頼感も代弁くださいました。最終候補として登壇したイベントで、**認定の取得まで担って下さった経理スタッフと出会い、個人では踏み込めなかった、繋がれなかったきっかけをSEEDCapにもらいました！**

”

2020年 第11回 受賞者 -林 伸彦 氏 特定非営利活動法人 親子の未来を支える会 理事長

“

出生前検査に関する不安や葛藤を課題にあげること自体、当時の社会では許容されていないように感じていました。SEEDCapに選ばれたことで、**肯定感に繋がりチームの連帯感と信頼が強まりました。**

”

2023年 第14回 受賞者 - 濱野 将行 氏 一般社団法人 えんがお 代表理事

“

過程でさまざまな活動者と出会い、自分の視座の低さを実感することができました。結果、**より外にインパクトを生み出すための動きを法人として始められた**ことが何よりも大きかったです。

”

お仲間の声

ファンド受益者の方々にお聞きしました。

回答数：32

Q コモンズのファンドに寄付のしくみがあることについての満足度をお聞かせください



Q SEEDCapの候補者情報をチェックしたことがありますか？



Q 応援先を決めるため候補者推薦をしたことがありますか？



Q 社会起業家やその組織の活動に参画したことがありますか？
(寄付・ボランティア・プロボノなど)



ファンド受益者の方々からのお声

50代 女性

“ 自分の世界観を広げていただく出会いがありました。「まじすごい」と直感が働き、SEEDCapと関係なく、その団体の寄付者として登録し、勉強会にも参加しています。団体としては、SEEDCapに登壇することで、別の波及効果も期待できると思います。

50代 男性

“ これだけ大勢の社会起業家の活動を支援する仕組みを、投信会社としてきちんと確立しているのは唯一無二の取り組みであり素晴らしい。

70代 女性

“ それぞれの社会起業家の思いが伝わるので、選択が出来ません。

40代 男性

“ 毎日、仕事をして家に帰る生活を繰り返しては気づく事の無い、様々な社会課題があり、かゆい所に手が届かないような小さな課題を丁寧に扱う、素晴らしいNPOがたくさん有る事を知りました。紹介いただいたNPOに、自分でも小額ですが寄付をさせていただいた事もあり、SEEDCapが作った一滴の波紋は、ゆっくり着実に広がっている事を実感しています。

受賞者/所属組織

Recipient / Organization



認定NPO法人

ACE

国際協力

児童労働

子どもの権利



ビジョン

世界の力を解き放つ
—子どもたちに自由の力を。
すべての人に変革の力を—

団体のインパクト指標

児童労働者数

約 1.6 億人



事業概要

ACE（エース）は児童労働と
子どもの権利に取り組むNGOです。
ガーナのカカオ生産地で地域の
児童労働への対応能力を高め、
企業や政府と協働し社会の
仕組みを変革しています。

また「広げよう！子どもの権利条約」キャンペーン、
沖縄県内の研修事業や自治体単位の取り組みを通じ、
子どもの権利が尊重される社会の実現を目指しています。

解決を目指している社会課題

子どもの権利、未来を奪う児童労働は、消費者である私たちの生活ともつながっています。2025年にあらゆる形態の児童労働を終わらせることがSDGsの目標8ターゲット7に入っていますが、達成が困難な状況です。また、日本国内においても虐待数の増加や子どもの貧困、自殺など、子どもの権利が十分に守られいるとはいえません。

受賞者プロフィール

代表

岩附 由香

大学院在学中に、ACEを共同創設し、以後代表。国際協力NGOセンター副理事長、エシカル推進協議会理事。2019年には大阪G20サミット開催にあわせたC20(Civil 20)の議長を務めた。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=IKsCSVaEL4o>



認定NPO法人

ACE



寄付金額

4

万円

寄付によるアウトカム

インドの村にて親や住民に
子どもの就学を呼びかけ

寄付が活用されたプロジェクト

2010年4月～「子どもにやさしい村」プロジェクトを実施しており、集会、家庭訪問、就学キャンペーンなどによる親や住民への子どもの就学の呼びかけにより、3つの村で、農作業、放牧、家事労働などの仕事のために未就学だった子どもや、中途退学してしまった子ども97人（j村29人、k村36人、l村32人）が、新たに公立学校に通うようになりました。

活動エピソード

ジョティカちゃん（仮名/8歳）は、家で家事労働をしていたため、学校へ通っていませんでした。両親は子どもの頃に学校へ通っていなかったため、読み書きができず子どもを学校へ通わせることに関心を持っていませんでした。

村の活動家が何度もジョティカちゃんの家を訪問し、女性グループのメンバーや学校へ通う他の女の子たちと一緒に親を説得した結果、学校に通えるようになりました。



今後必要となる支援・連携

パラダイムシフトの時代、必要なのはセクターを越えた協働

ACEでは途上国での児童労働はガーナにシフトし、またチョコレート関連企業との連携が進むほか、ガーナ政府との児童労働フリーゾーンの国内展開の事業をJICAから委託され行っています。日本国内の子どもの権利・人権についてはこども基本法の施行に伴い、子どもの意見表明権を保障する枠組みや仕組みを自治体単位で作るチャンスとなり、沖縄県うるま市や那覇市での取り組みを進めています。また、アドボカシー活動として、日本で国内人権機関を設立することも視野に入れていますので、今後連携していきたいです。

活動エピソード

各村では、子どもの代表者による「子ども村議会」が設立され、各村で子どもたちは、毎月2回ミーティングを開き、子どもの就学や学校施設、教育の質の改善などについて定期的に話し合っています。また、「子ども村議会」のメンバーは大人の村議会（自治組織）の会議にも参加して、子どもが抱える問題、特に学校の問題などが村全体で取り組まれるよう改善策を話し合うようになりました。



公益社団法人

Civic Force

災害対策と復興支援

国際協力



ビジョン

誰もが相互に 協力し合い、 市民（Civic）の 力（Force）で 災害に強い 社会をつくる

団体のインパクト指標

支援者数

2021年7月時点

12 万人以上



事業概要

災害支援のプロフェッショナル。
国内外の大規模災害時に企業、NPO、行政などが
対等なパートナーシップのもとに協働し、
迅速で効果的な支援を行うための連携組織です。
発災直後から復旧・復興まで、
個々の強みを最大限に生かすことで、
被災地のニーズに即した支援を届けます。
被災地と被災地をつなぎ、
被災の経験や教訓を共有することで、
災害に強い地域づくりをサポートしています。

解決を目指している社会課題

災害支援にかかわる様々な組織が、日頃から連携体制を構築しておくことで、いざというとき、必要な人々に必要な支援を届けることが可能になります。Civic Forceはそのためのプラットフォーム（土台）の役割を果たせるよう尽力しています。

受賞者プロフィール

Civic Force 代表理事（受賞当時）→ 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン 代表理事

大西 健丞

1967年5月29日生まれ。大阪府出身。国際協力NGOピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の代表理事。国内災害支援のシビックフォース設立に携わる。また、アジア太平洋州の総合支援地域国際機関アジアパシフィックアライアンスCEOに就任。ダボスヤンググローバルリーダーに選出。



公益社団法人

Civic Force

寄付金額

10

万円

寄付によるアウトカム

東日本大震災・被災地の救援・復旧、
避難者への支援

寄付が活用されたプロジェクト

東日本大震災では、発災翌日にチャーターヘリで被災地に入り、現地対策本部との緊密な連携のもと、特に被害が大きく支援が行き届いていない宮城県北部を中心に緊急支援をスタートしました。

主に気仙沼市や南三陸町などの体育館や公共施設に避難する数万人の生活支援物資のほか、南三陸町での仮設風呂の建設・運営、有人離島「大島」の人々の足となる大型カーフェリーの就航事業などにあてられました。

活動エピソード

Civic Forceでは、地元の皆さんが五右衛門風呂を作ろうとしている姿をみて、2011年3月30日からお風呂設営を開始しました。地元の大工さんや東京からの大工ボランティアや、地域の皆さんとともに、南三陸町内に6カ所のお風呂を設営し、家族連れが週末に利用されたり、平日の部活帰りの学生が立ち寄る"地域のお風呂"として利用されてきました。1日に100人をこえる方に利用いただいた日もあり、地元の皆さんにご愛用いただきました。



今後必要となる支援・連携

日頃から様々なリソースを有する方々と連携する

Civic Forceは、事業の柱の一つに「緊急即応体制を創る」を掲げ、様々なリソースを有する皆さんと日頃から連携することで、災害時にいち早く最適な支援を届けるための体制を整えています。なかでも、特に重視しているのが、企業の皆様との協働です。災害時連携協定の締結のほか、2017年からは緊急災害対応アライアンス「SEMA」に参画し、企業の皆様からご提供いただく物資を迅速に被災地へ届ける仕組みを活用しています。



活動エピソード

3,000人以上が暮らす東北地方最大級の有人離島「大島」（宮城県気仙沼市）は、"海の国道"であるカーフェリーが生命線です。陸に打ち上げられた既存フェリーの代わりに、広島から大型カーフェリー「ドリームのうみ」の無償提供を受け、震災発生から46日ぶりの4月27日に就航しました。これによって、支援物資や復旧関係車両、生活車両が行き来して、復旧が加速。当初3カ月で延べ10万人、車両2万台が利用しました。



認定NPO法人

侍学園スクオーラ・今人

生涯学習・リカレント教育

ヤングケアラー

若者の孤独

児童虐待

子育ての孤立化



ビジョン

自殺ゼロの日本を 目指して「孤立」を 「幸福」に変える

団体のインパクト指標

25歳の無業者が就労可能になることで
生まれる地域へのソーシャルインパクト

25歳の無業者が何らかの支援を受けて就労すると、40年間の納税額は約5100万。そのまま無業状態で受ける社会保障費は約6300万。若者一人を社会へ排出するとその地域にとって約1億円のソーシャルインパクトを望めることとなります。

約 **1** 億円



事業概要

民間の教育施設として

多年齢にわたる「社会参加不全」の人々を

総合的に支援する教育活動を

長野県と沖縄県で展開しています。

法人単独での問題解決ではなく、

成長進化する卒業生を社会に輩出することで、

誰でも「毎日スタートラインはやってくる」と思える

「生き方のモデル」を提唱すべく様々な事業を実施。

特徴は合宿型支援による総合包括的支援。

様々な寄付のスキームを実施し、

寄付者の底上げも目標である。

解決を目指している社会課題

労働人口減少により海外からの労働者に頼らざるを得ないと様々なところで実しやかに叫ばれているが、現在社会的引きこもり状態にある成人国民は140万人越え。学齢期の躓きによって自信を失い「不全状態」になっている人々が、再度自立支援教育を受けることによって未来の労働力となりうる可能性を提唱したい。自信喪失から孤立。孤立継続から自死選択へ。年間2万人以上のこの国の死者数をゼロにしたい。

受賞者プロフィール

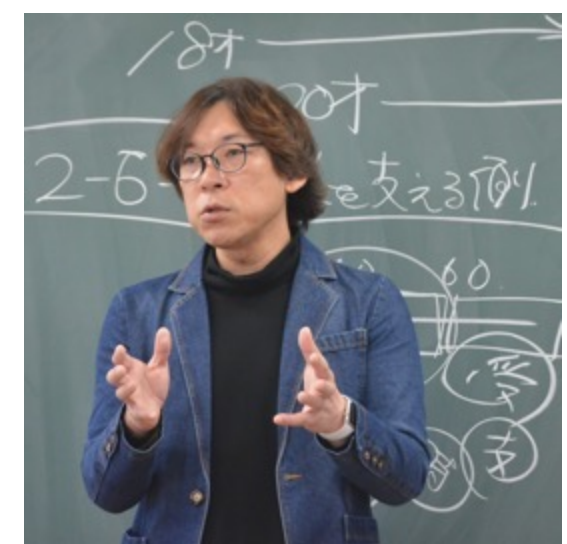
認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人 理事長、合同会社ハイド 代表取締役社長
SIXCOINSGOLF 代表

長岡 秀貴

元高校教師。27歳で独立。2004年に20歳に描いた夢を現実化させるために、NPO法人侍学園スクオーラ・今人を開校。2015年自叙伝「サムライフ」が映画化、全国公開。

受賞者スピーチ >>

<https://susnet.jp/presentations/228>



認定NPO法人

侍学園スクオーラ・今人

寄付金額

19

万円

寄付によるアウトカム

不登校児童への
無料相談会
参加人数

113人

相談会を通じて
入学した児童

8人

寄付が活用されたプロジェクト

出張キャラバンによる無料相談会

当時、上田市及び周辺市町村への出張相談会を実施していました。小諸市・佐久市・軽井沢町・東御市計4ヶ所で実施。のべ参加者は113人。そのうち入学者は8名でした。入寮入学者は年間200万円の利用料が掛かります。単純計算ですが19万円のご寄付により1600万円の事業収入に結びつきました。

活動エピソード

不登校児童生徒29万人。この数字もかなり甘いラインを引いた上での数字であり、公教育の限界を指し示す警鐘であると認識しています。学齢期で躓くとその時点で人生は不幸せになると誰もが曖昧な想定を確信しています。

サムガクに保育園にも行けず小中高と登校経験のない子が入学しました。精神的にも身体的にも病み入退院を繰り返す19年間でしたが、一念発起でサムガクへの入学を決意。プログラムを通して回復成長し、場面緘黙症だったこともきっかけとして言語療法士を目指すことになりました。入学当時は二桁の掛け算すら出来なかった子でしたが専門学校受験を目標にしてからわずか9ヶ月で高卒認定を取得し専門学校に合格。

学校という場所で人生を諦めていく人々に「そうではない人生が待っている」ことを伝えていくことが侍学園の使命だと思っています。「出来るか出来ないか」ではなく「やるかやらないか」の選択決定が出来る力を「基本的生きる力」と定義しています。



01

今後必要となる支援・連携

社会的引きこもり状態にある
成人国民は140万人越える。
この社会課題に触れ、自分ごととして考えてくれる人々を増やしたい。

受益者負担を強いることの出来ない業態であるため活動費の1／3は寄付で賄いたい。寄付金額ではなく「寄付者数」に拘ることで、この社会問題を自分ごととして考えてくれる国民を増やしていきたい。そのためにも、教育福祉の業界だけではなく、様々な分野の人々にこの社会問題について触れる機会を増やす必要があります。

同時に支援者不足は深刻で、更にNPOで働くことが若者たちのライフプランから希薄になっている現実があります。事業の保守よりも人材の発掘・育成が急務であると考えています。



特定非営利活動法人

マドレボニータ

子育ての孤立化

児童虐待

居場所/サードプレイス



ビジョン

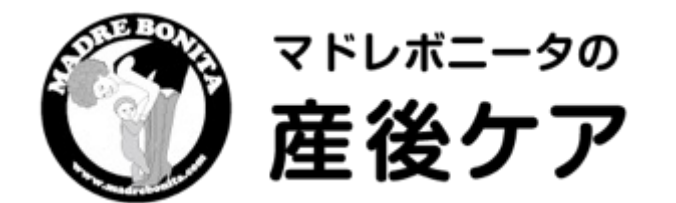
すべての家族が 育児を健やかに スタートできる社会へ

団体のインパクト指標

産前・産後ケアプログラムののべ参加者数

2024年4月末現在

74,939 名



事業概要

母となった女性が、産後の養生とリハビリに取り組み、本来持っている力を発揮できる日本社会を実現するため、子育てする女性とその家族のために、産前産後の教室を中心とした、5つの活動を行っています。

1. 産前・産後ケアプログラム
2. インストラクターの養成・認定
3. 産前・産後の調査研究
4. 産後ケアの啓発活動
5. 女性活躍推進法に基づく活動計画や、復職支援プログラムの展開

解決を目指している社会課題

産後うつ・乳児虐待・夫婦不和・M字カーブ問題など産後が起点となる社会問題

受賞者プロフィール

認定NPO法人マドレボニータ創設者 / NPO法人シングルマザーズシスターフッド代表理事

吉岡 マコ

1998年の出産をきっかけに、産後の休養とリハビリの重要性に気づき、産後の運動と対話のプログラムを開発。インストラクターを養成し現在は全国70個所で産後ケア教室を開催。「すべての家族に産後ケア」を目指し啓発活動や調査研究にも取り組む。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=Nu2UOt1ti3I>



特定非営利活動法人

マドレボニータ



マドレボニータの
産後ケア

寄付金額

27.5

万円

寄付によるアウトカム

リーフレット

『妊娠中～産後の過ごし方ガイド』を
制作し、配布

寄付が活用されたプロジェクト

認知度の低い「産後ケア」の認知度を高めるために、さまざまな啓発活動を行いました。男女ともに「産んだら楽になる」と産後を甘くみていて、実際に産んでみたら「そんな甘いものじゃなかった」とショックをうける・・・といった産婦やその家族をできるだけ減らせるよう、「産後どんなことがあるか、どんな備えをしたらいいか」をわかりやすく説明した三つ折りのシンプルなリーフレットを制作し、小児科や産婦人科のロビーや妊産婦さんが出入りするお店などで設置いたしました。

活動エピソード

2020年コロナ禍より新たにスタートしたオンライン両親学級・カップルで学ぶ産後ケア講座。NIKEジャパン様のサポートにより、受講料全額補助にてご参加いただきました。特にこの一年は研修を行い、担当できるインストラクターが増え、毎月定期開催したことで、カップルのタイミングに合わせてご参加いただけるようになりました。

国を挙げての男性育休推進もあり、育休を取得される予定の方が増えていますが、そんな育休中にパートナーはどんなサポートができるのか?「具体的なことがシミュレーションできてよかった!」という声や、逆に「夫が育休を取れないので不安だったけれど、まわりのサポートを得られるよう、妊娠中の今から夫婦で一緒に産後の準備をするきっかけになった!」とご参加者の皆さまより好評の声をいただいております。

今後必要となる支援・連携

**産後の家族が子育てを健康な状態でスタートできるよう
企業、医療、教育など様々な分野からの参画が求められます。**

妊産婦に接する機会の多い病院やクリニックにとってはスタッフが「産後ケア」の知識を得る情報ソースとして、また、さまざまな分野で活動されているNPO団体にとっては、非営利組織の運営のノウハウを分かち合い連携の機会として、また企業にとっては、女性のヘルスケアを支援する活動のひとつとしてご検討いただければ幸いです。

活動エピソード

復職支援プログラム

マドレボニータでは、企業における女性活躍やダイバーシティ推進のため、復職支援プログラムの提案、提供を行っております。

復職支援プログラムは2つの柱で実施しており、一つ目が産む前に当事者を含めた社員に向けて、産後ケアの必要性和重要性について知っていただく「産前講座」。二つ目が実際に社員の方やそのパートナーに適切な産後ケアの機会を提供する「産後ケア教室受講料補助」となっております。

2023年春より横浜ゴム株式会社様にて「産後ケア教室受講料補助」「オンライン視聴版「産前講座」」を導入。育休中の社員ならびにそのパートナーの「産後の心身の回復やスムーズな復職」への支援として活用いただいております。

認定NPO法人

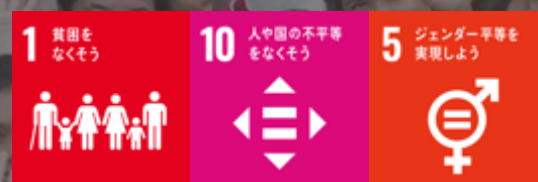
かものはしプロジェクト

若者の孤独

児童虐待

子育ての孤立化

子どもの貧困



ビジョン

だれもが、 尊厳を大切にし、 大切にされている 世界を育む

団体のインパクト指標

世界中で性的目的での
子どもの人身取引被害者数

約 **100** 万人



事業概要

「子どもが売られない世界をつくる」というミッションのもと、子どもたちが騙されて売春宿に売られてしまう

「性的搾取を目的とした人身売買問題」を解決するために、カンボジアで活動を開始。

現在は世界で人身売買が最も深刻なインドで被害にあった子どもや女性の支援を行っています。

2019年からは日本でも活動を開始。

深刻化する児童虐待問題の解決に向けて、虐待予防とアフターケアに取り組んでいます。

解決を目指している社会課題

子どもの「性的搾取を目的とした人身売買問題」の解決を目指しています。世界で人身売買が最も深刻なインドでは、女性や子どもが騙されて売られてしまうケースが多発しています。人身売買を取り締まる法整備、被害者が正義と権利を取り戻すための支援が急がれます。日本では、虐待や貧困で苦しむ子どもたちの社会課題の解決を目指して、虐待の予防・虐待を受けた子ども達の心身の回復のためのアフターケアを行っています。

受賞者プロフィール

共同創業者

村田 早耶香

認定NPO法人かものはしプロジェクト共同創業者。大学在学中に子どもが売られる問題を知り、かものはしプロジェクトを創業。以来、この問題の解決のために活動を続けてきた。現在は日本事業を担当。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=yygweoUODn4>



認定NPO法人

かものはしプロジェクト



寄付金額

42

万円

寄付によるアウトカム

インドでの
人身売買被害者の回復や
人身売買防止のための
仕組みづくり

寄付が活用されたプロジェクト

当時事業を開始して2年目のインドにて、思い描いた戦略を実行するためにご寄付を使わせていただきました。

インドでは、人身売買の被害に遭った方たちが回復するためのプロジェクトと、人身売買が起らない社会の仕組みを作るための加害者が適切に罰せられる仕組みを作るプロジェクトを行っていました。このプロジェクトを行ったことによって、それぞれのプロジェクトが後に大きく発展することに繋がりました。

活動エピソード

カンボジアでは、貧しい村の子どもたちが売られ、売春宿で働かされる現状がありました。私たちは、人身売買が起らない社会の仕組みを作るために、現地で雑貨工房を設立。雇用を創出し、子どもが売られることのない環境を整えました。また、現地の警察支援を通じて、取り締まりを強化。その結果、国際社会の圧力やカンボジアの経済発展も伴い、売春宿で働かされる子どもの数は激減し、カンボジアでの「子どもが売られる問題」の解決の一助になることができました。



©Natsuki Yasuda / Dialogue for People

今後必要となる支援・連携

現在は日本での児童虐待予防や回復支援の活動も行っており、国内の活動でも一緒にいただけるパートナーを募集しています。

現在はインドだけでなく、日本での児童虐待の予防と虐待からの回復を支援する活動も行っております。インド、日本での活動をより深く知っていただくために、活動説明会へのご参加や月々1,000円～の個人サポーターへのご登録、法人からのご寄付など、一緒にできることを考え、実施して頂けたら幸いです。

活動エピソード

インドで活動が続けていく中で、人身売買の被害にあった方たちが回復することをサポートするだけでなく、被害者が被害を乗り越え、リーダーとして成長することを支援するプログラムに発展しました。今では各地の当事者リーダーと繋がり、4000人以上が参加し新法成立を求めるインド最大の当事者グループに成長しています。



photo by Siddhartha Hajra

認定NPO法人

D×P

子どもの貧困

教育機会の地域格差

若者の孤独

ヤングケアラー

児童虐待

不登校、中退、自死



ビジョン

ひとりひとりの若者が 自分の未来に 希望を持てる社会

団体のインパクト指標

2030年までに対象にしているユース世代
(13歳～25歳) の3割までリーチする

60万人

事業概要

不登校・中退・経済的困難など、
さまざまな境遇にある10代の孤立を解決します。
繁華街の中やLINE相談で
ユース世代（13歳～25歳）と出会い、
困った時に頼れる人とのつながりをつくります。
全国の若者13,000人が登録する、
LINE相談サービス「ユキサキチャット」を運営。
また、大阪ミナミの繁華街にいる若者の拠点支援を行い、
利用者4000人のユースセンターを道頓堀から
徒歩5分の場所で運営しています。

解決を目指している社会課題

「10代の孤立」の解決を目指します。「10代の孤立」は、不登校・中退・家庭内不和・経済的困難・いじめ・虐待・進路未定・無業などによって、いくつかの安心できる場や所属先を失ったときに起こります。経済的に困難な状況にある人、家庭や学校が安心できる場ではない人、発達障害や学習障害を持っている人など、多様な事情が重なり合っています。それらの事情によって、孤立しやすい状況が生まれています。

受賞者プロフィール

理事長

今井 紀明

1985年札幌生まれ。神戸在住。2012年にNPO法人D×Pを設立。
経済困窮、家庭事情など孤立しやすい10代の頼れる先をつくるべく、登録者13,000名を超えるLINE相談ユキサキチャットを運営。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=s9N0uKUwy7c>



認定NPO法人

D×P

寄付金額

48 万円

寄付によるアウトカム

人と関わってよかったと
思える経験をつくれた数

21 人

高校生と大人が対話する
クレッシュェンド実施数

2 クラス

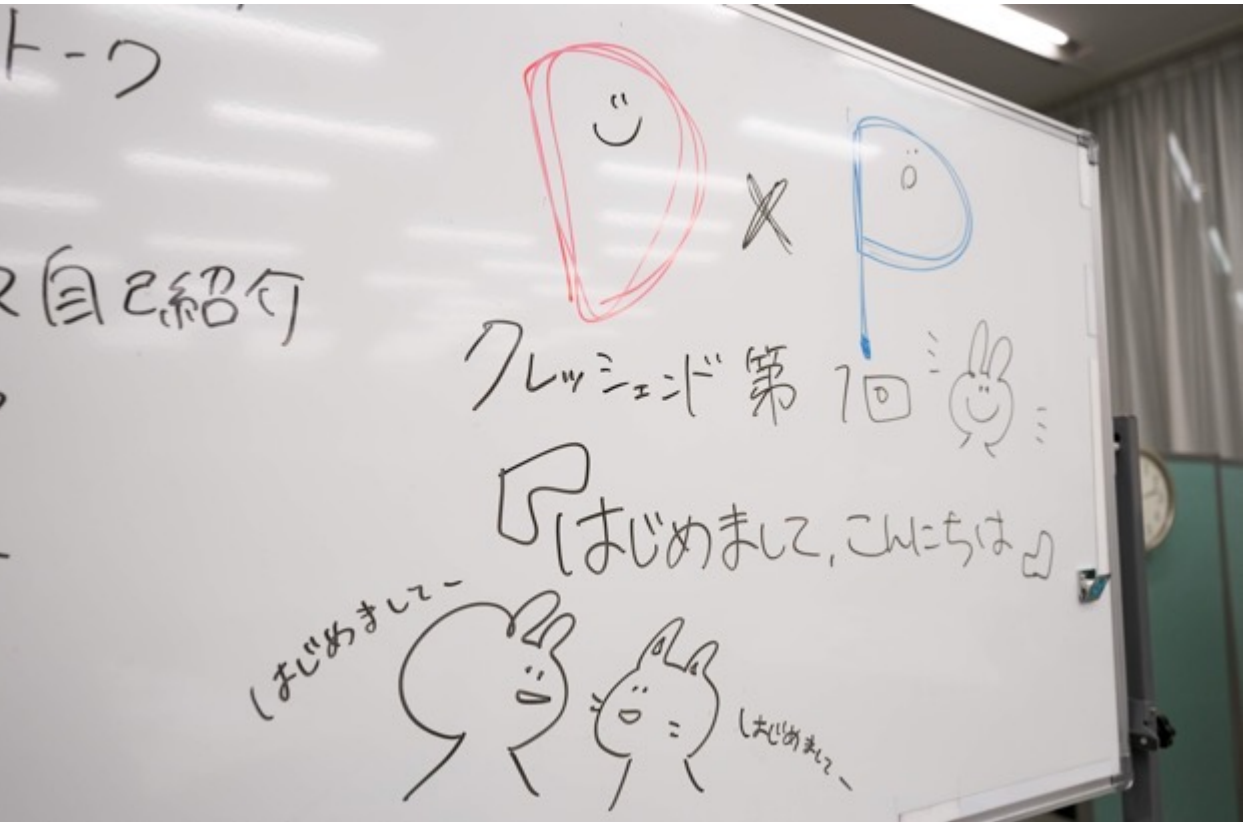
寄付が活用されたプロジェクト

通信制・定時制高校で行っているD×Pの独自プログラム。高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業です。ひとりひとりに寄り添いながら関係性を築き、人と関わってよかったと思える経験をつくります。プログラムの最後には、このオトナなら自分のことを話してみてもいいかと思えるようなオトナと高校生の関係性づくりを目指しています。

活動エピソード

通信制高校に通う高校生Aさんとの最初の出会いはD×Pが高校で実施した「クレッシュェンド」でした。当初は周囲と話すことが苦手そうでしたが、クレッシュェンドが終わった後にD×Pスタッフに勧められ、D×Pの写真部に定期的に参加するようになりました。そして自分たちで撮った写真を展示した写真を開催しました。

Aさんは、もともとカメラは特に好きではなかったし、普段は基本的に家にいて、長い時は2週間くらい外に出ない時もあったけど、今は写真を撮ることを口実に1人で外に出かけることが増えました。前は何か理由がないと絶対外に行きたくないと思っていたのですが、外に出るハードルが少しさがったと言います。これからは特に鳥のように、その瞬間にしか撮れないような、動いていて撮りにくい生き物を撮っていきたくと話していました。
(2015年度にインタビューしたAさん)



01

今後必要となる支援・連携

アライアンスを組み、
私たちだけでは
つながることが
できない層へも
リーチを増やしていきたい。

2030年までに、私たちが対象としているさまざまな困難を抱えたユース世代の3割（約60万人）までリーチしたいと思っています。しかし、ユキサキチャットの利用者はまだ13,000人。

他団体とアライアンスを組み、必要に応じてD×Pのノウハウを提供し、D×Pだけではつながることができなかった層へのリーチが必要です。

また、私たちは活動資金の約9割を寄付で運営しています。毎月定額で寄付をいただく月額寄附サポーター10,000人達成を目指しています。

みなさんと一緒にD×Pのセーフティネットづくりをしていきたいと思っています。

認定NPO法人

3 keys

児童虐待

若者の孤独

子どもの貧困

自殺

子どもの権利保障



ビジョン

ないがしろにされて いい子どもはいません

団体のインパクト指標

10代向け支援サービス検索・相談サイト
「Mex（ミークス）」の利用者数
（2023年度に1回以上利用したユニーク数）

約 **190** 万人



事業概要

虐待や貧困などで頼れる人が
周りにいない子どもたちへ、
支援サービス検索・相談サイトや
ユースセンターの運営を通じた
セーフティーネット作りを行っているほか、
YouTubeコンテンツ/相談会や
児童福祉施設向けのプログラムを通じて、
子どもたちをサポートする事業を展開しています。
更に、大人に向けて「白書」発行や
セミナーなどを通じて子どもたちの現状を伝え、
子どもたちの環境を変える事業を実施しています。

解決を目指している社会課題

児童虐待や子どもの貧困、孤立など、子どもを取り巻く現状は深刻さを増しています。しかし、世界に先駆け高齢社会に突入している日本では、子どもへの教育や福祉・社会保障の予算が少なく、親や学校の教員など、子どもを取り巻く個々人の意識や能力に子どもへの教育や愛情が委ねられています。どんな家庭や環境で育っても、すべての子どもが十分な教育や愛情を受けられる社会を目指しています。

受賞者プロフィール

認定NPO法人3keys 代表理事

森山 誉恵

慶應義塾大学法学部卒業後、子どもたちの生まれ育った環境によらず、必要な支援が行き届くことを目的としたNPO法人3keysを設立。
全国子どもの貧困・教育支援団体協議会理事。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=eYhkiy09z1I>



認定NPO法人

3 keys



寄付金額

66 万円

寄付によるアウトカム

10代向け支援サービス
検索・相談サイト
「Mex（ミークス）」の
初期立ち上げ、運営に充当

年間提供コンテンツ 800~900

寄付が活用されたプロジェクト

「Mex（ミークス）」は、家族や友達・からだ・虐待・いじめ・お金のことなど、人には言えない「困ったかも」を手助けする10代のためのWebサイトです。子どもたちが悩みを抱えたとき、合わせて800~900のコンテンツから、自分で悩みに合った相談先や悩み解決のヒントとなるコラムを検索することができます。また、誰にも言えない思いを一方的に吐き出すことができる「気持ちをほきだす」というコーナーもあり、子どもたちの人には言えない「困ったかも」を様々な角度からサポートしています。

活動エピソード

こども基本法の成立によって、子どもの声を聞くことの重要性が見直されています。「Mex（ミークス）」の「気持ちをほきだす」というコーナーには毎年1000件を超える子どもたちの声が匿名で届きます。それらを参考に、コンテンツ内容の刷新や追加を図るなど、Mexが今の10代の子どもたちに寄り添ったものになるようにしています。

“ - 匿名で届いた子どもの声 -
自分は不登校です。最近過剰なストレスに追われています。将来の不安や自分は学校にいてなくていいんだろうかと思って最近では胸が痛く病院にいったけどなんにもなく息も苦しくて死にたいです。自分はよく遠慮がちでそれもストレスになったんだと思います。誰も相談する人がなくてここに相談しました。

今後必要となる支援・連携

子どもたちにより細かいセーフティネットを提供できるように、
企業・団体みなさまのご支援をお待ちしています

3 keysは行政では制度化・予算化されていないけれど、子どもたちにとって必要なサポートや支援体制を作り提供し続けています。いずれの事業も単発で終わるものではなく、継続的なものになっています。金銭によるご寄付だけではなく、イベントや勉強会などの講師として私たちをお呼びいただくことや社内スペースに「寄付つき自動販売機」を設置していただいたり、CSR活動でパソコン・本・DVDなどの不用品を集めてご提供いただくなど、社員の方々にも「社会貢献」を意識して活動に参加していただける様々な支援方法がございます。

活動エピソード

2020~2021年に3keysでは、全国の「24時間子供SOSダイヤル」の実態調査を行い、都道府県によって異なる運営状況、対象者や相談員、管理体制、目的などについて実態をまとめました。その結果をもとに、それぞれの実態に即した形で子どもたちに支援サービスを周知・利用してもらうため、独自に指標作成から認定作業までを行う「認定サービス制度」を設け、Mexに掲載しています。



一般社団法人

more trees

生物多様性

自然資源の持続的利活用

気候変動

第一次産業の後継者不足



ビジョン

森と人がずっと
ともに生きる
社会を目指す

団体のインパクト指標

「多様性のある森」が
どれだけ各地に増やせたか

61.3 ヘクタール

moreTrees®

事業概要

音楽家 坂本龍一が創立し、

建築家 隈研吾が代表を務める森林保全団体。

地域と協働で森林保全を行う「more treesの森」の展開、
商品やサービスの企画・開発、森の情報や魅力の発信など

「都市と森をつなぐ」をキーワードに

「森と人がずっとともに生きる社会」を目指した

さまざまな取り組みを行っています。

解決を目指している社会課題

戦後に植林されたスギやヒノキなどの人工林の多くは林齢が50年程度になり、収穫可能な時期を迎えていることから、全国的に人工林の皆伐（一定の面積の木を全て伐採する方法）が増加傾向にあります。一方で、採算性の低下により皆伐後に放棄されたままの未植栽地も増えています。こうした再造林放棄地は皆伐地全体の6～7割ともいわれ、未植栽の状態で放置することが土砂災害などの要因の一つになっていると指摘されています。

受賞者プロフィール

事務局長

水谷 伸吉

1978年東京生まれ。

大学では環境経済学を学び、卒業後はメーカー勤務、インドネシアでの植林団体を経て2007年よりmore trees事務局長。

受賞者スピーチ >>

<https://susnet.jp/presentations/223>



一般社団法人

more trees

moreTrees®

寄付金額

73 万円

寄付によるアウトカム

「多様性のある森づくり」
に賛同する自治体

2 自治体

寄付が活用されたプロジェクト

伐採跡地や再造林放棄地、今後も手入れされる見込みがない森林等に対し、単一樹種のみならず、その土地に適した様々な樹種で構成される森林への転換を目指す「多様性のある森づくり」の趣旨に賛同する市町村をまずは開拓。
賛同を得られた各自治体にて有識者を招いた勉強会を開催し、地域内での理解を深め実践への足掛かりをつくりました。

活動エピソード

奈良県天川村では、1300年の歴史がある「陀羅尼助丸」という胃腸薬の原料であるキハダの木を植えています。戦後の全国的なスギやヒノキの植林ブームによって村内のキハダは数を減らし、現在では陀羅尼助丸の原料は村外、県外からの調達を余儀なくされています。村のアイデンティティともいえるキハダを中心とした広葉樹を植えることで、森の多様性の回復と地域経済の循環を目指しています。



活動エピソード

高知県梶原町では、町名の由来にもなっている梶（ユス/別名イスノキ）を中心とした植林活動に取り組んでいます。地元の子供たちと森に入り、イスノキなどの種を拾い、そこから苗木づくりもスタートしました。地元では若手主体による林業集団「キリカブ」が結成され、今後はこうした人たちによって苗木生産と森づくりがさらに盛り上がっていくことが期待されます。



今後必要となる支援・連携

- 脱炭素やネイチャーポジティブを目指す企業との連携
- 再造林放棄地を抱え、そうしたエリアを「多様性のある森」に転換したいと考える地域・自治体との連携
- 植林、育林、育苗の知見を持った有識者との連携
- 障がい者雇用を進める事業体との連携

NPO法人

PIECES

子どもの孤立

ウェルビーイング

子どもの権利

子どもの貧困



ビジョン

こどもが こどもでいられる 社会を

団体のインパクト指標

子どもにとっての信頼できる他者の存在
「どこにも相談できる人がいない」と答える子どもの数を0に

※ こども家庭庁「子供・若者インデックスボードver.4.0」から算出

21.8% ➡ 0%



事業概要

子どもの、そして全ての人の尊厳が相互に尊重される

ウェルビーイングな社会を目指しています。

私たち一人ひとりが自分のウェルビーイング、

子どものウェルビーイング、そしてそれぞれのウェルビーイング、

地域のウェルビーイングを大切にしながら市民性を紡ぐことが、

ウェルビーイングな社会の流れにつながります。

そのために、一人ひとりが子どものそしてお互いの存在に

まなざしを向けながらそれぞれのウェルビーイングを

探求する実践共同体を深め広げています。

解決を目指している社会課題

子どものウェルビーイングが阻害され、エンパワーされない構造にアプローチする。

実は今日もここ日本で、おおよそ1週間に1人、虐待によって子どもが亡くなっています。相対的貧困

は7人に1人、虐待相談対応件数は20万件を超え、いじめの認知件数は約51万件にもものぼります。

それらの表面化した困難の背景には、共通して潜む「孤立」という課題があります。私たちが暮らす

この街に、今日一日を安心して暮らせていない子どもたちがいます。

受賞者プロフィール

代表理事（受賞当時） / 児童精神科医 / 京都大学医学研究科 研究協力員 / こども家庭庁アドバイザー

小澤 いぶき

精神科医を経て、児童精神科医として複数の病院で勤務。トラウマ臨床、

虐待臨床、発達障害臨床を専門として臨床に携わり、多数の自治体のアド

バイザーを務める。2017年3月、子どものウェルビーイング達成に向け

たザルツブルグステイトメント作成に参画

受賞者スピーチ >>

<https://susnet.jp/presentations/54>



NPO法人

PIECES



寄付金額

89

万円

寄付によるアウトカム

子どもにとっても
ウェルビーイングな
地域をつくる活動数

- 学びの場や遊びの場、地域でのつながりづくりなど

9 件

寄付が活用されたプロジェクト

子どもたちにとって「信頼できる他者」であるために、そして信頼ある安全に暮らせるウェルビーイングな地域が広がるために、一人ひとりが市民性を紡ぎ自分の暮らしの中での振る舞いを捉え直しながら、できることを広げています。

最初の寄付により、これまで東京が主だった活動範囲を広げ、各地にいるかもしれない「孤立した子どもたち」と優しい関係性を紡げる大人を増やしたい。そんな思いから茨城県水戸市で約6ヶ月間に及ぶ育成プログラム(CforC)が始まりました。

活動エピソード

「わたしらしく子どもに関わりたい」と願う市民むけにCitizenship for Children（以下CforCと表記）というプログラムを行っています。参加者からは地域、職場、家庭などでのコミュニケーションに変化があったと多くお声をいただいています。

- NPO・NGO職員 -

“ 子どもだけでなく、日常的に関わる人たちとの関わり方もとても意識するようになった。その人の言動や行動、表情など些細なその人から出る変化にどのような想いが込められているか、そしてその人にしかない強みは何かを考える習慣がついた。

01

活動エピソード

CforCの参加者のAさんは、自身が関わっている駄菓子屋にやってきた子どもBちゃんとのやりとりをリフレクションで取り上げました。Bちゃんはお金を持っておらず「タダで買えるお菓子ない？」と聞いてきたそうです。Aさんはタダで買えるお菓子は無いことを伝え「ちなみに何が欲しい？」とも聞いてみました。いくつかやりとりをした後、「じゃあ100円あったら買いたいものかごに入れてくれる？Bちゃんおすすめセット作って売ってみようよ！」とAさんは言いました。Bちゃんは楽しそうにおすすめセットを作ったそうです。

ある場面を切り取っても、その場面の見方や子どもへの接し方は人それぞれです。だからこそ、CforCで他者と共に学ぶことで、他者のまなざしの背景と自らのまなざしに気づき、見立ての幅を広げていく。それが私たちの住むまちに優しい間が広がっていくことに繋がると考えています。

”

今後必要となる支援・連携

- CforCプログラムを取り入れた研修の実施
- CforC法人スポンサーとしての協賛
- 啓発キャンペーンやイベントなどの共同企画・実施
- 事業を通じた連携（寄付つき商品やサービスの開発・販売など）
- 専門知識やご経験を活かしたプロボノとしてのご参加

一般社団法人

WITH ALS

働き方改革とワークライフバランス

障害者の自立支援

多文化共生



ビジョン

全ての人が挑戦できる BORDERLESSな 社会創造

団体のインパクト指標

WITH ALSの支援者数

27,058 人



事業概要

ALSの課題解決を起点に、全ての人が挑戦出来る
BORDERLESSな社会の創造をミッションに、
エンターテインメント、テクノロジー、
ヒューマンケアの3領域で事業を展開。
BORDERLESSをテーマにした
イベントの企画プロデュースや
音楽やアートなどの作品の制作、
ユニバーサルファッションのブランドを運営。
また、当事者の可能性を広げる
テクノロジーツールの研究開発や、
重度訪問介護事業所WITH YOUを運営。

解決を目指している社会課題

多様性や共存が奨励される社会ではございますが、言葉だけが先行し、まだまだユニバーサルの社会
実装は追いついていないと考えております。まだまだ重度障がい者が宿泊できるホテルやライブ会場
などは少なく、バリアフリーが整備されていない施設などが数多くございます。我々は
BORDERLESSな企画制作、情報発信やBORDERLESSを実現するテクノロジーの研究開発を行
い、ユニバーサルの社会実装を加速させます。

受賞者プロフィール

代表理事

武藤 将胤

2013年にALSを発症し以来テクノロジーとクリエイティブの力で
「BORDERLESSな社会を創造する」をミッションに活動。アーティスト
EYE VDJ MASAとして東京パラリンピック開会式等に出演。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=AEh15nuvmWo>



一般社団法人

WITH ALS



寄付金額

101 万円

寄付によるアウトカム

MOVE FES.2019 開催
来場者 700 名

WHILLのカーシェアリング
機体メンテナンス費 2 台

寄付が活用されたプロジェクト

MOVE FES.は、障がい者も健常者も垣根を超えてワクワクできるBORDERLESSなALS啓発音楽フェスです。MUSIC LIVE、ALS TALK SHOW、TECHNOLOGYの3つの柱でコンテンツ展開しており、フェスの中で弊社が研究・開発に携わった障がいを抱えた方の可能性を広げる最先端のTECHNOLOGYを駆使したパフォーマンスも実施致しております。電動車いすWHILLの無償カーシェアリングを40歳未満の介護保険が使えない方向けに提供しております。

活動エピソード

WITH ALSではALSの課題解決を起点に、障がいを抱えた方の可能性を広げるテクノロジーの研究・開発を行っています。四肢麻痺かつ自身の声を失った人が視線入力と音声合成を駆使し自身の声で話せる仕組みや、脳波とロボットを組み合わせ身体表現活動が行える仕組みなど。弊社では、「MOVE FES.」という、BORDERLESSなALS啓発音楽フェスを開催しており、研究開発したテクノロジーをエンタメという形で披露します。選択肢や可能性を提示する事で生きる希望を届けており、重度障がいを抱えている方から「今の自分でも自分らしく挑戦していけるんだ。ありがとう。」と言って頂けた事は、今でも鮮明で我々の活動の原動力となっています。今年は2024年11月24日に渋谷公会堂にて「MOVE FES.2024」の開催を予定しており、全ての人が自分らしく挑戦できるというメッセージをお届けします。皆様是非ご来場ください。



01

今後必要となる支援・連携

ユニバーサルプロダクトの 共同研究・開発ができる コラボレーション

社会をユニバーサル化させBORDERLESSな社会を創出するためには、多種多様な企業様とのコラボレーションが重要だと考えております。

これまで多くのテック企業様とコラボレーションさせて頂き、様々なユニバーサルプロダクトを共同研究・開発して参りました。さらにユニバーサル化を加速させるためには、業種業態問わず波及力のある大手企業様ともアライアンスも構築し、ユニバーサルなプロダクトや環境を大規模で開発・整備できればと考えております。

つきましては、上記観点からコラボレーションさせて頂いていただける企業様のご紹介や企業交流のご支援をしていただけますと大変嬉しく思います。

特定非営利活動法人

親子の未来を支える会

子育ての孤立化

情報格差

医療・介護資源の偏在

ヤングケアラー

障害者の自立支援



ビジョン

誰もが暮らしやすい 社会のために 生まれる前から できること

団体のインパクト指標

日本でなんらかの異常をもって
生まれる人数

毎年約 **35,000** 人

胎児ホットライン

事業概要

「胎児ホットライン」は、
おなかの赤ちゃんに病気が見つかった時にかけこめる、
オンライン相談窓口です。

「ゆりかご」は、
病気や障がいのある暮らしについて『伝えたい人』と
『知りたい人』が繋がることのできる1500以上の家族が
登録するオンライン掲示板です。

「ライフサポート」は、
学校における高度な医療的ケアを担う看護師ネットワークの
構築や、教育現場での支援、送迎支援などを行っています。

解決を目指している社会課題

生まれる前の10ヶ月は、人生の中で最も成長する時期でありながらも、ヒトとしての存在が曖昧な時期です。生まれる前に病気が見つかることで、胎児治療や生後の治療に繋いで救える命がある一方、診断された時の家族への支援はまだ不十分です。全ての妊娠が思い通りに行かないことを理解し、胎児を含めた家族への包括的な医療（予防・ピアサポート・胎児治療・福祉との連携等）の実践を目指して支援・啓発事業を行っています。

受賞者プロフィール

理事長 医師

林 伸彦

医学部での産科実習中、出生前に病気が進む子どもたちに出会い、胎児科医を志す。生まれる前に病気がわかった時の家族の不安や孤独感・葛藤などに触れ、胎児期からの総合的な医療・福祉の充実を目指している。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=xlq7hsrSy30>



特定非営利活動法人

親子の未来を支える会

寄付金額

114 万円

寄付によるアウトカム

出生前検査前後の家族の
ための胎児ホットライン
掲示板ゆりかごの整備 1500 登録
家族

胎児ホットライン
相談窓口開設と運用

寄付が活用されたプロジェクト

「胎児ホットライン」は、おなかの赤ちゃんに病気や障がいがあったときに、妊婦さんやご家族を支える仕組みです。妊婦さんやご家族が、お互いの気持ちに向き合い、情報を整理する助けになるようなブックレットの作成や、病気や障がいと関わるご家族同士がつながり合える、オンラインピアサポート「ゆりかご」を運営しております。また、専門の相談員による中立的な相談窓口を開設しました。それぞれの家族があらゆる支援につながるためのワンストップ窓口です。

活動エピソード

妊婦健診で突然赤ちゃんの病気の可能性を伝えられたというご家族から、診察の帰り道にお電話をもらいました。不安や疑問だらけで落ち着かない時に、今わかっていることの整理や、今後考えていくことについてお話をすることで、次の受診までに家族で落ち着いて話をすることができました。なかには、「明日までに家族で考えてくるように」と、時間のなかで命に向き合う家族もありました。



今後必要となる支援・連携

だれもが安心して妊娠子育てできる社会を「一緒に」つくりませんか？

諸外国と比べて出生前検査がずっとタブー視されてきた社会ということもあり、生まれる前の赤ちゃんへの社会的サポートや医療支援にはまだ課題があります。生まれてくる赤ちゃんの健康を願うのは自然な気持ちだということを認めながら、全ての妊娠生活が思い通りに行かないことも受け入れ、妊娠中からの絶え間ない支援体制を作ることが大切です。胎児の病気に気づく場所（産婦人科、胎児科）と、行政、学校、家族会等が連携することで、漠然とした不安を具体的な課題へ見える化し、「大丈夫」と思える個人・社会の受け皿を広げることが長期目標です。

胎児ホットライン

活動エピソード

胎児に病気があるといわれたとき、他に相談できる場所がなかったと言われます。患者家族会は、産んで育てている人達の互助組織であることが多く、妊娠中に相談するのは簡単ではありません。家族や友人にも相談できないときがあります。妊娠中のあらゆる医療情報・福祉情報に詳しい専門相談員だからこそ向き合っている葛藤や不安を理解でき、相談者の価値観を最大限に尊重する私たちだからこそ話し相手になれるのだと思います。



NPO法人

チャイボラ

児童虐待

子どもの貧困

子育ての孤立化

若者の孤独

働き方改革とワークライフバランス



ビジョン

子どもたち
一人ひとりが
大切に育てられる
世の中を目指して

団体のインパクト指標

社会的養護施設への就職数

年間約 **200** 人

事業概要

児童養護施設を含む社会的養護施設の
職員確保・定着を支援する国内唯一の団体。
主な活動内容は
社会的養護総合情報サイト「チャボナビ」や
施設見学会の運営。
全国の児童養護施設の1/3以上が
チャボナビを活用している。

解決を目指している社会課題

社会的養護施設の職員不足

受賞者プロフィール

代表理事

大山 遥

2009年（株）ベネッセ入社。教材を寄付しようと児童養護施設へ問い合わせをした際に職員不足の現状を知り、施設職員になるため退職し保育士の専門学校へ入学。2018年クラスメイトと共にチャイボラを設立。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=OYwKPd3SkKQ>



NPO法人

チャイボラ



寄付金額

140 万円

寄付によるアウトカム

サポート範囲の拡大。都内中心から全国へ

施設で働く魅力を伝える
職員インタビューの
撮影・編集・発信

54 映像

現在の
サポート施設数
(2024.4月)

401 施設

寄付が活用されたプロジェクト

これまでオンラインをメインかつ、都心を中心に施設訪問を行っていたが、寄付により全国の施設に訪問する旅費が捻出できた。その都度インタビュー取材を行い動画編集もプロに依頼。この取り組みをきっかけに全国の施設へサポートを広げることができた。現在、計401施設をサポートしており、社会的養護総合情報サイト「チャボナビ」の月間PV数は11万に成長。

活動エピソード

社会的養護の施設は広報費の捻出が難しく、それにより深刻な職員不足という課題を抱えています。「寝るまでそばにいて」と服の袖を幼い子に引っ張られても、どうしてもその時間を捻出することができない施設の現状があります。「あと一人職員がいれば」子どもたちに我慢させなくて済むことが山ほどあります。チャイボラはそんな施設の現状を打破するため、施設に代わり施設で働く魅力を発信しています。



今後必要となる支援・連携

社会的養護について正しく知る場をつくる

児童養護施設などの社会的養護の施設は自分たちとは縁遠いものだと思っている方が多いと思います。そこで生活している児童やそこに子を預ける親御さんへの偏見を感じることもあります。それらは「現状を正しく知る」ことで変わらなと思っています。正しい情報を発信する場を拡大していくためにも、企業との連携はとても重要と感じています。チャイボラではお昼休みの1時間に無料の学習会を多くの企業で実施してきました。たった1時間でも見える世界が変わります。それにより救える命が増えると思っています。このように、社会的養護について正しく知る場を企業と連携し増やしていきたいです。

活動エピソード

「欲しいのは物じゃなくて人」私が会社員時代に施設に自社の教材を寄付しようと思い合わせをした際に言われた言葉です。今日本では、20名程の児童を1人の職員が見る時間が大半を占める施設もあります。職員にどんなに想いがあってもできることに限界があるのが現状です。子どもは施設を選べません。どの施設に措置されたとしても「子どもたち一人ひとりが大切に育てられる」環境を作るためにチャイボラは活動しています。



NPO法人

Peace Culture Village

多文化共生

国際協力

教育機会の地域格差

平和文化

アイデンティティ



ビジョン

“平和×○○”を
探求する機会を創出し、
グローバルな平和文化の
構築を目指す

団体のインパクト指標

PCVのプログラムに参加した人数

2024年4月時点

42,000人以上



事業概要

一人ひとりにとって平和な世界を構築するための役割、
ビジョンを磨くための機会・場づくりを行っています。
平和 x 学び・継承・テクノロジー・リーダー育成の
各種プログラムを通じて、自由な探求と個々人の気づき、
そして私たち一人ひとりから生まれ出てくる
平和文化の共創の輪を広げています。

解決を目指している社会課題

被爆者なき未来において、平和を伝えていく人たち、継承者の育成。

受賞者プロフィール

専務理事

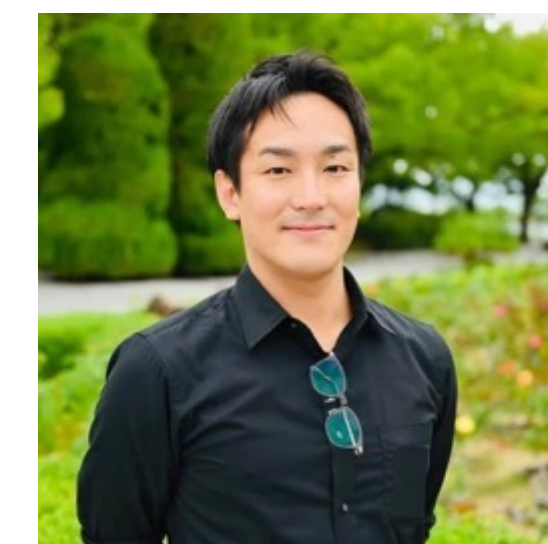
住岡 健太

1985年生まれ。広島県広島市出身の被爆3世。10代にアメリカ留学、アジア一人旅を経験し「平和とは何か？」が人生の大きな問いとなる。

「平和をつくる仕事をつくる」をコンセプトに20代で起業。

受賞者スピーチ >>

https://www.youtube.com/watch?v=ebb_ZU-n27w



NPO法人

Peace Culture Village



寄付金額

185 万円

寄付によるアウトカム

出逢い・対話・問いが生まれる
「My Liv Project」の立ち上げ

各地域で生み出された
「観光人（平和の継承者）」

35 人

プロジェクトを
展開した地域

9 地域

寄付が活用されたプロジェクト

「My Liv Project～私のWell-beingに出逢う旅～」
このプロジェクトでは、教育旅行を通じて中高生が多様な価値観に出逢う機会をつくります。中高生が自分自身の価値観や生き方を考えるきっかけを提供するだけでなく、プロジェクトに関わるすべての人が共に学び合う環境をつくることで、それぞれの「Well-being」を実現できる社会づくりに貢献することを目指すものです。

活動エピソード

平和について改めて考える私たちのプログラムには様々な地域の子どもたちが参加しています。その出会いを通じて子どもたち自身の新たな価値観や生き方を見出し、「未来の平和をデザインする」きっかけとなっています。

“ - 埼玉県・高校生 -
普段なんでもない話ばかりしている友人と平和について真正面から考えられる時間になりました。恥ずかしくなっちゃって避けられがちな話題かもしれないけれど、腰を据えて話すことで、知らなかった自分や相手の一面を知ることにも繋がりました。「平和について考える」こと自体を身近にできる、そんな素敵な時間と空間だったなと思います！ ”

今後必要となる支援・連携

志を共にする仲間たちと 「コレクティブ・インパクト」を生み出したい

SEEDCapをきっかけに、ビジョンを共有する仲間たちと立ち上げた" My Liv Project "を、今後はより多くの学校や地域に展開したいと考えています。PEACE DIALOGUEなどの活動を担うPEACE BUDDYの育成や、地域で活躍する「観光人」の発掘にこれまで以上に力を入れ、一人でも多くの子どもたちや先生にプログラムを届け、平和文化の「継承者」を増やしていくことを目指します。こうした活動について講演などの形でシェアする機会や、さらに大きな価値を共創する仲間との出逢いを心から楽しみにしています。

01

活動エピソード

広島には年間30万人以上の修学旅行生が訪れ、平和学習を受講しています。今までは主に被爆者が発信の役割を担ってましたが、高齢化により2025年には37%の被爆者団体が活動困難になると言われています。活動困難な理由の1位は継承者不足。2位は資金不足です。
これらの課題を解決するため、継承者の育成、継続可能な仕組み作りに挑戦しスタートしたプロジェクトが「PEACE DIALOGUE」です。現在では継承者となった若者は累計約150名になっています。



02

一般社団法人

えんがお

若者の孤独

独居高齢者の増加

ヤングケアラー

障害者の自立支援

居場所/サードプレイス



ビジョン

こどくとこりつを、
地域の現場から
変えていく。

団体のインパクト指標

交流する高齢者・子ども・
障がい者・不登校生の数。

年間 **4,000** 人

事業概要

徒歩2分圏内の8軒の空き家を活用し、
学童保育やフリースクール、地域食堂、
高齢者サロン、障がい者施設などを運営。
年間4,000人以上が集い、地域内で様々な世代が交流。
高齢者、子どもや不登校生、障がいの有無などに関わらず
全ての人が日常的に関わり合っている。
こうした活動が全国に広がるための
ネットワーク構築も行う。

解決を目指している社会課題

高齢者、シングル家庭、不登校生、障がい者など、さまざまな立場の人が孤立することなく、困った時に誰かに頼ることのできる社会環境を目指している。

受賞者プロフィール

代表理事

濱野 将行

高齢者施設で勤務する中で高齢者の孤立の現実に直面。孤立が全ての社会課題につながることを実感し、孤立の予防と解消を目指す。徒歩圏内に8軒の空き家を活用し、日常的に多世代が交流する仕組みを作っている。

受賞者スピーチ >>

<https://www.youtube.com/watch?v=0YWvz6x1slc>



一般社団法人

えんがお



寄付金額

200 万円

寄付によるアウトカム

子ども事業における
障がい児サポート、
遊び場整備

180 時間

多世代交流の拡大、
居住支援高齢者の
巻き込み

240 時間

寄付が活用されたプロジェクト

新規事業（子ども事業）において、障がい児の受け入れ、家庭の相談対応などを積極的行いました。また、居住支援により転居してきた高齢者を地域のプレイヤーにする仕掛けづくりも行いました。この2つは、ニーズはあるものの現場では手が届かなかったところであり、本寄付を活用させていただくことで進められました。また、ハード面では子どもたちの遊び場の整備にも活用させていただきました。

活動エピソード

子どもの分野では、お子さんの発達に課題があった時、予備知識もなく相談相手もいないと、保護者の方だけで悩みを抱えてしまう状況がよくあります。今回立ち上げた学童保育では、本来の事業内容にはない部分としてそういった相談の窓口を設置し、施設の利用の有無に関わらず相談に乗れる環境を作ることができました。傾聴から適切な機関の紹介までお手伝いでき、涙を流しながら安心される方もいました。



今後必要となる支援・連携

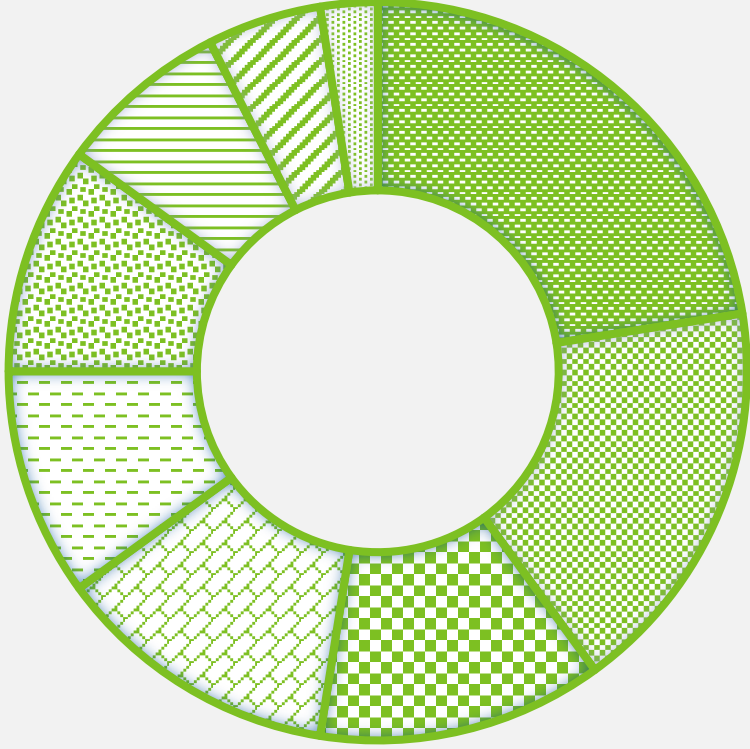
他地域にスケールするために 必要な組織的变化

こうした活動を本地域以外にも広げたいという問い合わせなどを多く受け、活動をスケールしていくことにも力を入れ始めました。その中で、業界は違ってもすでにスケールに成功している団体の方などにお会いし、そのための視点や方法などについてアドバイスいただきたいです。
また、法人全体としてもリデザインの時期にきており、デザインなどの分野に長けている方のサポートがいただけるとありがたいです。

活動エピソード

高齢者分野では、住む場所のない方に対して「つながり付き住宅」という事業があります。大幅な赤字事業ではありますが、孤立し、住居も見つからない方につながりとセットで住居を提供するものです。本寄付を受け、コーディネートにより力を入れました。結果、移住した、過去には孤立し一人で毎日家にいた高齢者が地域食堂の料理人になったり、地域サロンのお店番になったりする変化を生むことができました。



年度			社会起業家	所属団体	活動カテゴリー
			* 2024年6月時点		
1	第1回	受賞者	岩附 由香 氏	認定NPO法人 ACE	【子どもの権利】世界の児童労働 【共生社会の実現】地域共生型の市民ネットワーク社会 【環境問題の克服】森林保全 【災害対策】災害支援のプロフェッショナル 【学びの場】若者・子どもの自立支援 【学びの場】すべての子どもに素晴らしい教育を 【学びの場】日本初の全寮制国際高等学校 【子育て】産後うつ・すべての家族に産後ケア 【地域の活性化】お金の地産地消 【国際協力】途上国へのテクノロジーの波及 【国際協力】世界の人身売買問題 【地域の活性化】東北の起業家支援 【共生社会の実現】障がい者雇用の促進 【学びの場】孤立する若者 【国際協力】子ども兵・平和教育 【共生社会の実現】ソーシャルエンターテインメント 【子どもの権利】子どものセーフティーネット 【共生社会の実現】日本に来る難民の支援 【環境問題の克服】清掃活動、マイクロプラスチック 【環境問題の克服】森林保全 【共生社会の実現】生活困窮者・ホームレス支援 【国際協力】アフリカの医療環境改善 【子どもの権利】子どもの孤立・地域のウェルビーイング 【環境問題の克服】アジア・太平洋地域の社会起業家支援 【地域の活性化】社会的投資のエコシステム構築 【共生社会の実現】難病ALSの啓発活動 【子どもの権利】アートをういた心のケア 【地域の活性化】水産業の発展 【子育て】胎児期の家族ケア 【学びの場】安全で豊かな放課後を 【共生社会の実現】日本に来る難民の支援 【子育て】児童養護施設の人事不足解消 【地域の活性化】新しい地域のあり方 【環境問題の克服】スポーツ X 社会奉仕活動 【学びの場】広島発信の平和教育 【文化の継承】住宅遺産の継承 【文化の継承】伝統文化の継承と発展 【共生社会の実現】若者の成長・高齢者の孤立解消 【学びの場】音楽を通じた子どもや地域の発展 【共生社会の実現】海外にルーツを持つ子どもの支援
2			曾根原久司 氏	NPO法人 えがおつなげて	
3			水谷 伸吉 氏	一般社団法人 more trees	
4	第2回	受賞者	大西 健丞 氏	(当時) 公益社団法人 Civic Force	
5	第3回	受賞者	長岡 秀貴 氏	認定NPO法人 侍学園 スクオーラ・今人	
6			松田悠介 氏	(当時) 認定NPO法人 Teach For Japan	
7			小林りん 氏	公益財団法人 インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢	
8	第4回	受賞者	吉岡 マコ 氏	(当時) 特定非営利活動法人 マドレボニータ	
9		-	木村 正樹 氏	(当時) コミュニティ・ユース・バンク momo	
10		-	中村 俊裕 氏	米国NPO コペルニク	
11	第5回	受賞者	村田 早耶香 氏	認定NPO法人 かものはしプロジェクト	
12		-	竹井 智宏 氏	一般社団法人 MAKOTO	
13		-	福井 佑実子 氏	株式会社 プラスリジョン	
14	第6回	受賞者	今井 紀明 氏	認定NPO法人 D×P	
15		-	鬼丸 昌也 氏	認定NPO法人 テラ・ルネッサンス	
16		-	志村 真介 氏	ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン	
17	第7回	受賞者	森山 誉恵 氏	認定NPO法人 3keys	
18		-	石川 えり 氏	認定NPO法人 難民支援協会	
19		-	小嶋 不二夫 氏	株式会社 ピリカ	
20	第8回	受賞者	水谷 伸吉 氏	一般社団法人 more trees	
21		-	川口 加奈 氏	認定NPO法人 Homedoor	
22		-	町井 恵理 氏	NPO法人 AfriMedico	
23	第9回	受賞者	小澤 いぶき 氏	(当時) NPO法人 PIECES	
24		-	濱川 明日香・知宏 氏	一般社団法人 EarthCompany	
25		-	深尾 昌峰 氏	公益財団法人 京都地域創造基金	
26	第10回	受賞者	武藤 将胤 氏	一般社団法人 WITHALS	
27		-	鳥居 晴美 氏	特定非営利活動法人 子供地球基金	
28		-	長谷川 琢也 氏	一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン	
29	第11回	受賞者	林 伸彦 氏	NPO法人 親子の未来を支える会	
30		-	平岩 国泰 氏	特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール	
31		-	渡部 カンコロンゴ 清花 氏	特定非営利活動法人 WELgee	
32	第12回	受賞者	大山 遥 氏	NPO法人 チャイボラ	
33		-	小松 洋介 氏	(当時) 特定非営利活動法人 アスヘノキボウ	
34		-	馬見塚 健一 氏	一般社団法人 ソーシャルスポーツイニシアチブ	
35	第13回	受賞者	住岡 健太 氏	NPO法人 PCV	
36		-	木下 壽子 氏	一般社団法人 住宅遺産トラスト	
37		-	守谷 玲太 氏	株式会社 アートモリヤ	
38	第14回	受賞者	濱野 将行 氏	一般社団法人 えんがお	
39		-	菊川 穰 氏	一般社団法人 エル・システムジャパン	
40		-	田中 宝紀 氏	NPO法人 青少年自立援助センター 定住外国人支援事業部	

特集

Special feature



第15回コモンズSEEDCap受賞者



コモンズ投信は永井さんの「憎しみの連鎖をほどいていく活動」を支持し応援します。
今後1年間、イベントの企画や広報活動をお手伝いさせていただきます。

NPO法人

アクセプト・インターナショナル

代表理事

永井 陽右 氏



受賞者プロフィール

テロと紛争の解決をミッションに、主にソマリアやイエメンなどの紛争地にて、テロ組織の投降兵や逮捕者、戦争捕虜などの脱過激化と社会復帰を支援。テロ組織との交渉および投降の促進、国連機関や現地政府の政策立案やレビューにも従事。近年は、テロや武力紛争に関わる若者に関する国際規範の制定に向けた取り組みも行っている。国連ではアドバイザーボード、専門家会議や専門作業部会のメンバー、国際人道法の専門機関であるGeneva Academy of International Humanitarian Law and Human Rightsでは客員フェローを務める。London School of Economics and Political Science修士号（紛争研究）。早稲田大学社会科学部研究科博士号（社会科学）。国内外で受賞・選出多数。著書に『紛争地で「働く」私の生き方』（小学館）、『共感という病』（かんき出版）など。

応援先決定理由

永井さんの「憎しみの連鎖をほどいていく」という確固たる意志をもった活動への共感、スケール感ある日本人青年の実行力への期待から、お仲間、最終選考委員、そして社員からの多くの推薦が永井さんに集まりました。同団体の活動は、平和を奪われた環境下で未来を閉ざされた若者たちに希望を与えています。よりよい未来づくりと次世代育成をミッションとするコモンズ投信としても、この難しく重要な活動を支援したいと考えました。被害者が巻き込まれ、結果として加害者になってしまうという負の連鎖を解決しようとするこの活動は、支援対象が加害者であるという都合上、企業が組織として応援しづらい構図があるのも事実です。そんな中で、私たちは寄付だからこそ、この活動を応援できると考え、アクセプト・インターナショナルの永井さんを第15回応援先として決定し、200万円を寄付することとしました。

寄付金額

200 万円

他2名の最終候補者、勝山恵一さん（一般社団法人ハッシュダイ・ソーシャル）、潮崎真惟子さん（認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン）には、それぞれ5万円を寄付させていただくこととなりました。

より詳しい内容はこちらから

第15回コモンズSEEDCap応援先を
【NPO法人アクセプト・インターナショナル 永井陽右さん】に決定



<https://www.common30.jp/customer/4372/>

SEEDCap 15周年記念対談 | 歴代の先輩を掘り下げよう



SEEDCap15周年を記念して、オンライントークイベント「コモンズSEEDCap 歴代の先輩を掘り下げよう企画 Vol.1」を開催しました。

今回対談いただいたのは、第6回の応援先である認定NPO法人D×P 理事長 今井紀明さんと、第14回の応援先である一般社団法人えんがお 代表理事 濱野将行さん。社会起業家の活動歴でも先輩となる今井さんと、2023年にSEEDCapを受賞した濱野さんが、対話を通して今後の活動の成長のためにいろいろなヒントを得ていこうという企画です。

「いばしょ」をテーマのひとつとして活動されてきたお二人は今、日本の寄付文化をどう見ているのか、活動を応援され続けるために必要なことは何か、よりよい明日へのアクションにつながる言葉にあふれる時間となりました。

対談ハイライト

寄付型の組織経営で相互扶助をつくりなおす

対談では、応援者がいるからこそ活動できる中、どのように応援者を増やし関係を築いてきたのか、濱野さんが直面している課題に対して、今井さんがこれまでのお取り組みを踏まえて回答しながら「寄付文化をつくる」というテーマを掘り下げていきました。

濱野：立ち上げた頃は、"NPOも自分で稼ぐ必要がある"という風潮を受け、事業収入の一部を非営利に回すモデルに行き着きましたが限界もあります。いろいろな人を巻き込み社会課題に取り組むため、寄付を集められる組織を目指しています。今井さんはどのように寄付型に舵を切ってきましたか？

今井：当初から寄付型の組織経営を目指し、セーフティネットが足りない部分に対して相互扶助をつくりなおすため、民間・個人・法人の寄付文化を醸成してきました。月額寄付の積み重ねには強いエネルギーがあります。それを伝えながら、どのように寄付者の方々に参画してもらえるか、関係人口を増やしていくかを常に考え続けています。

濱野：寄付金の使用用途を可視化し伝える中で、寄付と給与の関係はまだまだ厳しく感じます。給料が低いと優秀な人材が入らず業界としても伸びない一方で、寄付者側からすると給料が高いことを素直に受け入れられない文化があると思います。

今井：D×Pは公的な仕事に近いと考え、公務員の給与などを参考に決めています。私たちのビジョンは「ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会」だからこそ、現場で支援を行う相談員やスタッフにしっかり支払っていききたい。そのために皆さんと一緒に希望をつくっていこうと伝えています。

寄付型の組織経営をずっと模索しつつも、一人で悩まずいろんな人と議論しながらやってきました。NPOのエコシステムがまだまだない中、私たちのものがきをどのようにエネルギーに変えていくか。NPOに留まらず、社会全体で非営利的なムーブメントを生み出すことができるかが鍵です。あらゆる人が豊かに暮らすためには、もちろん国に対して求めるべきこともありますが、自分たちで公共をつくっていく気持ちでいたいですね。

対談動画はこちらから視聴いただけます。

【オンライン】コモンズSEEDCap
歴代の先輩を掘り下げよう企画 vol.1 !



<https://www.youtube.com/live/t1iDgVTLPMk>

これからのSEEDCap



伊井 哲朗 代表取締役社長

渋澤 健 取締役会長

馬越 裕子 マーケティング部 / ソーシャル・エンゲージメント・リーダー

「SEEDCap」を 通じて共に創る未来

「SEEDCap」の開始から15年、 コモンズと社会の変化

渋澤：この15年を経て、コモンズは常にエッジに立っている存在でありたいと改めて思います。最初は手探りで「SEEDCap」をはじめとする寄付の仕組みを作ってきましたが、今は似たような事業も増えてきたように、社会も日々変化しています。最近では「インパクト」という概念が広まってきた中で、私たちの取り組みはどのように測定できるか、どのようなインパクトを社会に出せているかを考えながら、進化し続けていきたいですね。

伊井：当初は、運用会社が寄付プログラムを行うことになかなか理解を得られませんでした。それが、今は「コモンズの寄付プログラムはいいね。」と声をかけられることも増え、社会的な変化の芽を感じています。私たちは、創業以来、投資を通じてファンドの先にある企業価値を創造することや、寄付を通じて社会課題を発信するメディア的な役割を担うことを大切にしてきました。こうした取り組みも15年の積み重ねで、ようやく共感していただく方の輪が広がってきたことを実感しています。

寄付という長期投資の 文化をつくるまで

伊井：創業時の赤字の時代から取り組んでこそ、社内で寄付の文化を醸成していけると考えていたので、創業当初から「SEEDCap」の運営に着手していました。当時はボーナスもない中、寄付を行うことに社内でも疑問を持つ人もいたかもしれません。SNSでもごく一部の方から、「寄付するくらいなら投資家の信託報酬を下げろ」という批判をいただいたこともありました。

渋澤：世の中では社会起業家という言葉も定着していない時期で、そこに寄付をする考えも当然ありませんでした。ソーシャルセクターとして社会課題の解決に挑む人たちがいて、そこにお金を回す方法は寄付しかない。民間でも自治体でもなく、長期投資を通じて持続的成長を促すお金を循環させる私たちだからこそ、社会課題解決に向かう人にお金を回していくべきではないか。リターンのない思想に社内でも議論はありましたが、社内外の理解を深める場となったのが「社会起業家フォーラム」だったと思います。

社会起業家フォーラムの 登壇者・参加者とのつながり

伊井：社会起業家フォーラムはコモンズの中でも集客力のあるイベントで、初めて来てみた方でも気が付けばマンスリーサポーターを担っていたり、登壇したNPOの中で働き始めたりと、参加者の感動と行動を生み出す場になっています。多くの人を巻き込みながら今日まで続けてこられたのは、応援したいと思える、熱量ある社会起業家の方々がいたからこそ。11名による登壇を絶えず

続けてこられたことも、それだけの社会課題があり、そこに立ち向かう人がいるからですね。

馬越：社会起業家フォーラムを担当し始めたころは、「社会をよくするってなんだ？」と多くの人は思うか、無関心であった時代。その頃出会った社会起業家の方々は、そういった時代に目の前の社会課題を見過ごさず立ち上がった人々ですから、既存のしくみを壊して未来を創ろうとする、いい意味で破壊力をもった方々が多かったように思います。そして社会貢献という道が若者たちが進む選択肢にもなりつつある現在は、横の繋がりをもつことが上手なリーダーたちが増えているように感じています。私自身も登壇者の方を選定をするうえで、コモンズとの対話に価値を見出だしてくださる方、コミュニケーションを大事にされる方、そして真摯な想いで輝きを放つ言葉をもった方に惹かれています。そうした方とタグを組むことは、よりよい未来を共創する上で、寄付の力を倍増させてくれると経験から学んだからでした。実際、フォーラムの主演は、登壇者である社会起業家のみなさんだけでなく、休日にもかかわらず足を運んでくださる参加者全員です。社会起業家のメッセージを通して、自分たちの暮らす社会や世界で起きていることを垣間見て、心動かされ、何か社会に対してできる自分だけのアクションを探していられる。会場での対話を通して、帰られる時には変化しているみなさんの表情が毎回印象的で、そしてそこで生まれるエネルギーは確実に社会起業家の活動の後押しにもなっています。

個々が価値観を磨き、同志で大きな流れを創る場へ

渋澤：当初からのこだわりは、寄付をする先は組織ではなく「起業家」自身であることです。もっと応援したいな、エッジが立っているなと思える人を見てきたように、一人ひとりを応援できる我々の広い意味でのキャパ

シティも、10年後には10倍にしていきたいですね。渋沢栄一が日本初の銀行を立ち上げた時、「滴から大河にする」と言いました。我々一人ひとは滴のような存在ですが、一滴一滴がエンパワーメントされ集まることで、未来に向かう大きな流れになっていきます。皆さんと積み上げてきた「SEEDCap」でも、一層の社会的インパクトを出しながら流れを作っていくことで、コモングラウンドができていくと思います。

伊井：コモングラウンドにいろんな人が集まりコラボレーションなどが起こるといった未来はとても楽しみですし、我々はそのグラウンドキーパーであり続けたいと思います。お金を使う・貯める・増やす・寄付する方法を選ぶことは、自分の価値観と向き合うこと。使う＝買い物をするとき、環境にやさしい商品を選ぶことも一つの価値観ですし、増やす先の投資先や寄付先にも自身の価値観が現れるはず。自分は何を大事にしたいのか、問いを立て、価値観を磨いていける場をつくっていきたいです。次の10年で価値観を磨いた人がさらに増えていたら、きっと面白い社会になるし、これはコモンズが伝え続けてきたことなのだと、私たちの価値にもつながっていくと思っています。

渋澤：世代を超えるためにつくった「コモンズ30ファンド」は、みんなのより良い明日のための手段です。今日までに関わり集まってくださったコモンズファミリーは、未来を”Co-creation”する同志です。それぞれ役割を異にしながらも、よりよい明日を築くために集まり前進させてきました。今後の10年では「SEEDCap」を通じてさらに同志が集まる場を創り続けていきます。

2024年5月12日開催
「コモンズフェスタ15周年イベント～投資は未来を信じる力～」
会場の様子



編集後記 - 15年を振り返って

創業と共にスタートした寄付のしくみが、15年を経て、どんな姿に成長することができたのか。

本レポートの作成を通して浮かび上がってきた、社会起業家の方々にとっての、コモンズのお仲間にとっての、そしてわたしたちコモンズ投信にとっての「コモンズSEEDCap」の価値。

とても印象的だったのは、過去の応援先のリーダーたちが、制作協力のお声掛けに即ご快諾くださったこと。過去の記憶を遡っての作業に、非常に多忙な社会起業家のみなさんが快く心をこめて応えてくださったのです。

対話と関係の継続性を大切にする、超長期投資の姿勢をもつ当寄付のしくみが根底にあるからこそ、作り上げることができたレポートでした。

試行錯誤を重ねて活動を展開してきた各リーダーや団体が、大きく力強く成長していく様を改めて見せていただくことができました。

また、コモンズのお仲間や社員が、どのような傾向をもって寄付先を選び、応援してきたのかも改めて振り返ることができました。

そして、欲しい未来へのわたしたちの投資（寄付）は、はじめは小さな力だったかもしれませんが、確実によりよい明日への流れを作り出す一助を担うことができている。そのことを改めて本レポートから実感することができました。



コモンズ投信株式会社
マーケティング部/ソーシャル・エンゲージメント・リーダー
馬越 裕子

今後も、コモンズ投信は皆さまと共に次の時代を切り拓いてまいります。
更新情報は下記ウェブサイトで定期的にお知らせしております。
ぜひチェックしてみてください。

<https://www.common30.jp/contents/>



SEEDCap

15周年記念 寄付インパクトレポート

July . 2024
Ver. 1.0

発行：
コモンズ投信株式
〒107-0062 東京都港区南青山2-5-17
ポーラ青山ビル16階
<https://www.common30.jp>



こどもたちの時代をより良い社会に 持続可能な社会を投資で創る

意思あるお金が循環し希望あふれる世界
一滴の水が大地に染みて大河になるように、お金も少しずつ集まれば大きなファンドになります。

投資家の資金をコモンズ投信が預かり、未来を創る企業に投資する。その企業と対話をしながら価値を共に創る。企業の努力によって生み出された価値は世の中をより豊かにし、その果実はファンドを通じて投資家に還っていく。そして生まれたコモンズ投信の利益の一部は寄付にまわす。コモンズが橋渡し役となって、今日よりもよい明日を築く循環を実現しています。

制作：
ICHI COMMONS株式会社
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1
ニューオータニガーデンコート12階
<https://ichicommons.com>



社会課題の解決に取り組むすべての 人や組織の共助共創を支える

ICHI COMMONSは「社会課題の解決に取り組むすべての人や組織の共助共創を支える」をミッションに、社会課題解決に向けた共助共創プラットフォーム「サステナNet」を、企業・自治体・社会課題解決を担う非営利/営利法人の皆様に提供しています。

ICHI＝「市」＝市場、市役所、市町などいろんな視点と、
「一」＝個人という意味を掛け合わせ、両者の中にある共通項を元に社会課題に取り組んでいこうという想いを込めています。

